

【第1号議案】(報告事項)

令和元年度事業報告に関する件 (平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

I. 事業の状況

岡本一郎新会長のもと、「幸せを創る」をキーワードとして掲げ、産官学連携の強化、会員拡大・ユーザー企業勧誘、人材育成(ダイバーシティを含む)、グローバル化、マルチマテリアル化への対応などを目標として、持続的な研究・技術開発活動、講演大会・シンポジウム・会誌出版など事業活動、国際交流活動など魅力ある学会を目指した活動を実施した。また、2021年度の70周年記念、2022年度のICAA(International Conference on Aluminum Alloys:アルミニウム合金国際会議)18の事業検討も開始した。総合計画委員会では会員増強WGで若手会員、シニア会員を優遇する新会費制度を検討した。著作物のあり方検討WGでは著作物の利活用方法のガイドライン作成を検討した。春秋講演大会においては3日制とともに開始した概要集電子版ダウンロードサービス、優秀英語ポスター発表に加え、第137回秋期大会で市民フォーラムで市民フォーラムで東京農工大学学生フォーミュラチームTUAT Formulaが企画した学生フォーラム「より速く、Team TUATがフォーミュラカーで学ぶものづくり、人づくり」を開催した。人材育成については中高生向けの企画として大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与・貸与事業や軽金属材料を使用した科学実験事例を紹介する「軽金属科学実験室」WEBサイト、学生会員の就職支援事業の「ライトメタルリクルート」WEBサイト運営を継続した。男女共同参画委員会では春期大会での企業・大学・他学会での男女共同参画取組、若手のキャリアパスを紹介するセッションを開催した。8月には男女共同参画学協会連絡会が後援する「女子中高生夏の学校 2019～科学・技術・人との出会い～」にも出展した。国際交流委員会では、6月にタイ・バンコクでアルミニウム技術セミナー「Technical Seminar on Aluminum Alloys in Thailand」を、11月に第18回軽金属国際ワークショップ「欧州における自動車用アルミニウム材料の最前線」を、1月には軽金属国際ワークショップ「Meet Fraunhofer! ～日独の産学連携最前線:モビリティ分野の最新成形技術～」を開催した。また、「環境、エネルギー、持続可能な開発」をテーマとするALMA(Asian Light Metals Association) Forum 2020 & Meetingの第139回秋期講演大会会期中開催を企画した。研究開発活動は6部会(水素と材料物性、押出組織予測、圧延生産技術、マグネシウム、ミルフィーユ構造、組織形成予測)を加え、19研究部会が活発な活動を展開した。最終年度を迎えた6研究部会は1部会が1年延長、5部会が終了となり、次年度は新規部会(マテリアルズ・インフォマティクス)を加え、15部会が活動することとなった。2016年度に更新した軽金属ロードマップの改訂も実施し、日本アルミニウム協会のアルミニウム技術戦略ロードマップへの参考資料としての掲載を決定した。学会誌「軽金属」の論文投稿の促進策として、投稿勧誘制度(会誌掲載された論文著者1名の春秋講演大会懇親会費を1回無料とする)や共同刊行誌Materials Transactionsから和訳投稿できるものとして研究論文に解説、技術報告を追加した。シンポジウムにおいては航空機、輸送機器のマルチマテリアルなどを取り上げ、話題提供を行った。また、マグネシウムに関するセミナー「マグネシウム合金の基礎技術」第3回を水戸で開催した。本部企画の見学会では、柳河精機(株)、本田金属技術(株)を見学した。3月6日に予定した第34回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—応用編(加工・熱処理による組織変化)」第6回は新型コロナウイルス感染症拡大により延期とした。

[1]研究会、学術講演会等の開催(定款第4条第1項第1号)

1. 春秋講演大会の開催

1)第136回春期大会

会期	: 令和元年5月10-12日	
会場	: 富山国際会議場	
実行委員長	: 松田健二(富山大学)	
定時総会	: 令和元年5月10日	
研究発表講演	: 令和元年5月11-12日	153件発表
ポスターセッション	: 令和元年5月11日	58件発表(日本語55件、英語3件)
表彰式	: 令和元年5月10日	
懇親会	: 令和元年5月11日(ANAクラウンプラザホテル富山)	
機器・カタログ展示	: 令和元年5月11-12日	9社参加
軽金属企業研究会	: 令和元年5月11-12日	7社参加

2)第137回秋期大会

会期	: 令和元年11月1-3日	
会場	: 東京農工大学 小金井キャンパス	
実行委員長	: 桑原利彦(東京農工大学)	
研究発表講演	: 令和元年11月2-3日	152件発表
ポスターセッション	: 令和元年11月2日	77件発表(日本語73件、英語4件)
表彰式	: 令和元年11月1日	
懇親会	: 令和元年11月2日(東京農工大学 生協食堂)	
機器・カタログ展示	: 令和元年11月2-3日	9社参加
軽金属企業研究会	: 令和元年11月2日	11社参加

2. シンポジウム、セミナー等の開催

	名 称	開催令和年月日	開催場所	参加者数
1	第 111 回シンポジウム「アルミニウム溶湯処理・溶湯品質評価分析」	元年 6 月 14 日	千葉工業大学津田沼キャンパス	55 名
2	アルミニウム技術セミナー「Technical Seminar on Aluminum Alloys in Thailand」	元年 6 月 21 日	タイ・バンコク Chaophya Park Hotel	100 名
3	第 3 回見学会	元年 8 月 8 日	柳河精機(株)、本田金属技術(株)	19 名
4	第 35 回軽金属セミナー「マグネシウム合金の基礎技術」	元年 8 月 22 日	茨城県水戸合同庁舎	26 名
5	第 112 回シンポジウム「今後の航空機産業における軽金属材料の役割」	元年 9 月 13 日	日本大学駿河台キャンパス	30 名
6	軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」	元年 9 月 19、20 日	つま恋リゾート彩の郷	37 名
7	第 18 回軽金属国際ワークショップ「欧州における自動車用アルミニウム材料の最前線」	元年 11 月 12 日	日本アルミニウム協会	50 名
8	第 113 回シンポジウム「輸送機器のマルチマテリアル」～迫りくるマルチマテリアル化(適材適所)の時代に向けて～	元年 11 月 29 日	千葉工業大学津田沼キャンパス	32 名
9	第 32 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—入門編(状態図と組織)」第 9 回	元年 12 月 6 日	千葉工業大学津田沼キャンパス	35 名
10	軽金属国際フォーラム「日独の産学連携最前線:モビリティ分野の最新成形技術」	2 年 1 月 31 日	ドイツ文化会館	35 名
11	第 33 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—中級編(時効析出)」第 8 回	2 年 2 月 6 日	日本大学駿河台キャンパス	34 名
12	第 34 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—応用編(加工・熱処理による組織変化)」第 6 回	2 年 3 月 6 日 6 月に延期	芝浦工業大学芝浦キャンパス	

[2]国内外における研究協力・連携の推進(定款第 4 条第 1 項第 2 号)

1. 国際交流

1)ICAA(International Conference on Aluminum Alloys)

2022 年 9 月 4-8 日の日本(富山)開催に向け、10 月 8 日に ICAA18 組織委員会、実行委員会を設置した。実行委員会はサーキュラー・プログラム編成 WG、論文審査・論文集編纂 WG、会場・講演会・パンケット WG、展示・エクスカージョン・見学会 WG が行事企画を行った。

2)ALMA (Asian Light Metals Association) Forum 2020 & Meeting

令和 2 年 11 月 6 日-8 日に首都大学東京日野キャンパスにて開催される第 139 回秋期大会と同時開催を準備した。

(1)ALMA Forum 2020

「環境、エネルギー、持続可能な開発」をテーマとし、日本、中国、韓国、台湾、オーストラリアから 10 名の講演を企画した。

(2)ALMA Meeting

各国との MOU 締結、今年技術講習会を開催したタイの ALMA 参画を準備した。

3)タイ技術講習会

6月21日にTISTR(Thailand Institute of Scientific and Technological Research:タイ国立科学研究所)と共催でタイ日系企業のタイ人スタッフの技術レベル向上を目的に、日本で毎年開催している「軽金属基礎技術講座」をベースに鋳造、圧延、押出、熱処理、板成形など技術講習を実施し、100名が参加した。タイでの次回開催も含め、日系企業が進出するアセアン諸国との連携策を協議した。

4)台湾軽金属協会との連携

前年度維持会員入会した台湾軽金属協会からの要請に応じ、下記2件に対応した。

(1)AFLM(The Asian Forum on Light Metals)2019への派遣

11月6-7日に台湾高雄で開催されたAFLM(The Asian Forum on Light Metals)2019に国際交流委員会を代表して久保田正広教授を派遣し、友好を深めた。また、フォーラムテーマ「The Innovative Technology and Application of Light Metals in Industry」の招待講演者として、(株)UACJの戸次洋一郎氏を派遣し、「Current Status of the Aluminum Industry in Japan and Aluminum Materials for Transportation Equipment as a Future Focus Area」の講演を行った。

(2)日本企業見学

10月4日の第22回「関西」機械要素技術展視察団来日に合わせて、10月2-3日の関西地区企業工場見学先幹旋の要請に応じ、関西地区維持会員企業の協力を得て、(株)シマノ・自転車博物館サイクルセンター、東洋アルミニウム(株)・八尾製造所、近畿車輛(株)、(独法)造幣局の見学会を設定したが、直前に催行人数に満たず、来日中止となった。

5)第17回軽金属国際ワークショップ

10月3-4日に、富山大学第5回先端材料研究フォーラムの共催行事として第17回軽金属国際ワークショップを開催した。

6)第18回軽金属国際ワークショップ

11月12日に、Prof. Jurgen Hirsch(Aluminium Consulting, Hydro Aluminium Rolled Products GmbH)を招き、「Aluminium for light-weight car design(欧州における自動車用アルミニウム材料の最前線)」と題した講演を実施し、50名が参加した。

7)第19回軽金属国際ワークショップ「Meet Fraunhofer! ~日独の産学連携最前線:モビリティ分野の最新成形技術~」

フラウンホーファー日本代表部の後援により、昨年に引き続き1月31日にドイツ文化会館にて開催し、35名が参加した。成形技術の研究を行うフラウンホーファーIWU研究所の自動車をはじめとするモビリティ分野の最新応用研究(軽量化、マルチマテリアル、成形、加工、接合など)事例を紹介した。日本の自動車メーカーからは軽量化技術における最新研究成果を紹介した。プログラムは以下の通りである。

- ①「フラウンホーファー研究機構の概要と日本における活動」 フラウンホーファー日本代表部 三木英哉氏
- ②「Technology development for forming of lightweight components」 Fraunhofer IWU Dr. Verena Psyk 氏
- ③「Potential of innovative welding technologies for the application of 7xxx series aluminum alloys in car body construction」 Fraunhofer IWU Dr.-Ing. Frank Riedel 氏
- ④「摩将来モビリティの軽量化技術について」 (株)本田技術研究所 豊田裕介氏

2. 産学官の連携

参加会を2回開催し、第1回は7月24日にマテリアルズ・インフォマティクスをテーマとした講演、および素材メーカーの開発取組紹介講演を実施した。第2回は11月27日に日本フルハーブ・厚木工場の見学、「トラック輸送機器業界の現状および今後の展望」講演を実施した。経済産業省製造産業局金属課金属技術室 木原栄治室長に第1回参加会いただき、講演「マテリアルズ・インフォマティクスに関する最新動向」について意見交換を行った。また、昨年に続き、国立研究開発法人産業技術総合研究所中部センター構造材料研究部門から研究開発事業に関する提言を求められ、本学会の研究部会との連携等々、要請した。

3. 日本アルミニウム協会との連携

日本アルミニウム協会主催により開催された産学懇談会に出席し、情報交換を行った。日本アルミニウム協会の研究助成事業の約 30 件の研究の大部分を講演大会で成果発表した。大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与貸与事業にも参画いただき、子供向け学習教材「アルミなるほどミュージアム」冊子供与、自動車フード、エンジンシリンダブロックなど大型製品貸与の協力を得た。この他、2020 年発行の日本アルミニウム協会「アルミニウム技術戦略ロードマップ」改訂に合わせ、軽金属学会「軽金属ロードマップ」のアルミニウム部分を参考資料として掲載することとした。2022 年富山開催予定の ICAA18(International Conference on Aluminum Alloys)の後援を受諾いただいた。

4. 日本マグネシウム協会、日本チタン協会、軽金属溶接協会との連携

マグネシウム、チタン関連の研究部会を継続し、両協会メンバーの参画により研究連携を実施した。「マグネシウム合金の基礎技術」セミナー講師を日本マグネシウム協会事務局に依頼した。チタン研究部会については、日本チタン協会内で研究者交流の場設置を検討することとなった。溶接・接合関連の若手研究者奨励のため、春秋大会ポスター発表に軽金属溶接協会からの表彰を実施し、溶接関係研究発表の合計 6 名が表彰された。また、11 月 13-15 日に開催された INALCO2019(14th International Aluminium Conference)に協賛し、展示企業勧誘メール送信などを行った。2022 年富山開催予定の ICAA18(International Conference on Aluminum Alloys)の後援を受諾いただいた。

5. 他学術団体、業界団体との連携

日本学術会議材料工学連絡委員会、日本工学会等と連携を保つとともに、日本金属学会、日本鋳造工学会、日本鉄鋼協会、日本塑性加工学会、日本材料学会など、他学協会との研究発表、シンポジウムの共催、協賛、後援などの協力を積極的に行った。

[3]学会誌、学術図書等の刊行(定款第 4 条第 1 項第 3 号)

1. 会誌「軽金属」等の編集発行

本年度は、第 69 巻 4-12 号、第 69 巻 1-3 号までの 12 冊を、うち、第 69 巻 11 号は特集号「先進的接合技術」として刊行した。掲載内容の分類は以下のとおりである。

区分	編数	区分	編数	区分	編数
巻頭言	5	連載講座	9	支部編集特集	16
研究論文	27	新製品紹介	0	はぐくむ	5
速報論文	4	随想	9	研究部会紹介	0
解説	13	LM コラム	4	学会便り	19
LM レビュー	1	研究室／研究所紹介	1	支部便り	17
年間レビュー	12	維持会員紹介	2	私の一枚	0
座談会	2	国際会議便り	4	掲載総数	150

2. 研究部会報告書の発行

前期終了した7研究部会の研究部会報告書を発行した。今期終了の5部会は次年度に発行予定。

No.	名 称	発行 令和年月日
70	アルミニウム板圧延における表面欠陥研究部会報告書 「アルミニウム板圧延表面欠陥事例集」	元年 7 月 31 日
71	冷間/熱間加工工程における組織形成予測部会報告書 「冷間/熱間加工工程における組織形成予測」	元年 5 月 30 日
72	汎用型高性能マグネシウム合金研究部会報告書 「マグネシウム合金展伸材の室温～温間成形時の組織形成メカニズムおよび マグネシウム合金展伸材を再溶解・保持した際の特性変化に関する調査報 告」	元年 11 月 1 日
73	異種材料接合・界面技術研究部会報告書 「アルミニウムの異種材料接合技術」	2 年 3 月 31 日
74	多機能性材料研究部会報告書 「ポーラス化・複合化および積層造形による軽金属の多機能化」	2 年 3 月 31 日
75	押出組織制御予測技術研究部会報告書	2 年 3 月 31 日
76	超音波鋳造研究部会報告書	2 年 3 月 31 日

3. その他刊行物

講演概要集電子版は大会参加者へのダウンロードによる配布のみであったが、WEB ページでの一般販売を開始した。

名 称	発行 令和年月日
第 136 回春期大会講演概要集(冊子体、電子版)	元年 4 月 11 日
第 111 回シンポジウム「アルミニウム溶湯処理・溶湯品質評価分析」	元年 6 月 14 日
第 112 回シンポジウム「今後の航空機産業における軽金属材料の役割」	元年 9 月 13 日
第 137 回秋期大会講演概要集(冊子体、電子版)	元年 10 月 2 日
第 18 回軽金属国際ワークショップ「欧州における自動車用アルミニウム材料の最前線」	元年 11 月 12 日
第 113 回シンポジウム「輸送機器のマルチマテリアル」 ～迫りくるマルチマテリアル化(適材適所)の時代に向けて～	元年 11 月 29 日
軽金属国際ワークショップ 「欧州 Fraunhofer による産学連携の仕組み及び最新の応用研究」	2 年 1 月 31 日

[4] 研究及び調査の実施(定款第 4 条第 1 項第 4 号)

研究委員会は新設の「LPSO/MFS 構造材料研究部会」を加えた 19 部会が活発な研究事業を実施した。WEB 上に各研究部会活動紹介を行い、部会活動の見える化を図った。春秋講演大会でアルミニウム合金の熱処理技術とミュオン測定検討部会、高精度板成形シミュレーションの普及化検討研究部会、アルミニウムの凝固・微細化・清浄化研究部会と LPSO/MFS 構造材料研究部会が企画したテーマセッションを実施した。また、最終年度を迎えた 6 研究部会は 1 部会が 1 年延長、5 部会が終了となり、新規部会(マテリアルズ・インフォマティクス研究部会)も加え、次年度の設置準備を行った。

令和元年度の 19 研究部会の活動成果概要を下表に示す。

No.	部会名	課題	研究成果概要
1	高精度板成形シミュレーションの普及化検討研究部会 【開催期間】 平成 28 年 4 月 - 令和 3 年 3 月 末(1 年延長)	アルミニウム等軽金属材料の成形シミュレーションの材料モデルとパラメータの適正化による高精度化を行い、得られた知見の一般化を追及し、実用部品への適用も可能とする技術確立を進める。さらには、ソフト開発を視野に入れ、国プロへの提案を目指し研究開発を進める。	2 回(令和元年 7 月 23 日、9 月 25 日、12 月 13 日、令和 2 年 3 月 16 日は延期)の研究部会を開催。部会 1 年延長を決定し、企画委員会の令和 2 年 9 月 18 日開催予定のシンポジウム「冷間アルミ板材成形 CAE の高精度化と自動車への適用(仮題)」を共催し、部会関連テーマで講演することとした。 ①5022 材の異方性降伏関数を用いた穴広げ成形シミュレーション、外接多角形による降伏曲面簡易同定法の実験的検証、部会共通サンプルを用いた角ダイス-円筒パンチ成形品の形状測定および成形解析との比較などを実施。 ②5000 系アルミニウム合金板における異方性降伏関数を用いた穴広げ成形シミュレーション、外接多角形を用いた簡易同定法による A5052-O の降伏曲面の測定、部会会期に関する討議、NEDO 先導研究状況報告と確認などを実施。

2	<p>アルミニウムの再結晶集合組織形成モデル化研究部会</p> <p>【開催期間】 平成29年4月-令和3年3月末</p>	<p>アルミニウムの再結晶集合組織形成のモデル化を中心として、塑性加工を施したアルミニウムの変形・再結晶集合組織予測モデルの構築とその実験的検証、および再結晶集合組織による成形性(曲げ性・深絞り性)の評価を行う。ただし、用いる塑性加工法は圧延に限定しない。</p>	<p>4回(令和元年7月1日、8月29-30日、11月20日、令和2年3月4日)の研究部会を開催。8月は変形・再結晶集合組織に関する広い知見を得ることを目的として、日本金属学会「金属・無機・有機材料の結晶方位解析と応用技術研究会」と日本鉄鋼協会フォーラム「多結晶材料の異方性の評価と予測技術」との共催で公開講演会を開催した。軽金属関連の発表は4件。</p> <p>①変形集合組織予測プログラム: Euler角にはBungeの定義を用い、多結晶材のTaylor因子を平均値で示すこととし、Euler角を格子点で発生することを利用して、$\Phi=0$の場合の$\phi_1=0\sim 360^\circ$のODFを、試料対称性を考慮して効率よく計算する方法が議論された。</p> <p>②再結晶集合組織予測モデル: 核生成モデルはTaylor因子、PSN、粒界近傍を、核成長モデルは$\langle 111 \rangle 40^\circ$回転を用いる。再結晶の配向核生成モデルとして、Taylorファクターを使用した蓄積エネルギー計算、粒界近傍での核生成、粗大粒子まわりの核生成(PSN)の3つとする。</p> <p>③材料特性(成形性)測定は担当各社の条件が示された。</p>
3	<p>アルミニウム合金の熱処理技術とミュオン測定検討部会</p> <p>【開催期間】 平成29年4月-令和3年3月末</p>	<p>ミュオンスピン緩和スペクトル法など最新の測定技術を駆使しつつ、熱処理において時効硬化型Al合金中に生ずる現象の正確かつ精密な把握と、その現象を最大限に生かしつつ、かつ低コスト化に効果的な熱処理技術、新規な熱処理手法を立案し、自動車、鉄道車両、航空機部材として利用可能な熱処理技術を確立することを目的とする。</p>	<p>3回(令和元年7月16日、12月12日、令和2年27日)の研究部会を開催。第136回春期大会においてテーマセッション「アルミニウム合金の熱処理に関連した最近の原子空孔・溶質クラスタ・GPゾーン及び時効析出研究とその検出方法3」を開催した。基調講演3件、部会招待講演1件、一般講演23件の構成で9セッション中、2セッションを英語セッションとした。</p> <p>①時効硬化型アルミニウム合金の時効初期に対して得られているmSR、電気抵抗、マイクロ組織観察、磁化率測定の結果に加えて、中性子線回折、X線小角散乱の結果も得られつつあり、初期の溶質と原子空孔の構造について、統一的理解が得られるフェーズに入った。</p>
4	<p>押出材組織に起因する欠陥検討部会</p> <p>【開催期間】 令和元年4月-令和5年3月末</p>	<p>組織の違いにより生じる表面欠陥、機械的特性のばらつきに対して押出加工条件や工具形状で改善が図れるか否かの議論に用いることができる数値シミュレーションの開発を進める。用いる組織予測式の開発には、各種アルミニウム合金の組織変化の特性を把握する必要があるため、組織分析の実験も並行して進める。</p>	<p>3回(令和元年6月20日、10月2日、令和2年1月24日、3月10日は延期)の研究部会を開催。</p> <p>①A6063の熱間押出実験を計画し、押出製品の組織および融着部の欠陥を予測するためのデータ収集を目的としたホローダイスを設計・製作して、押出を行った。ダイス設計に先立ち数値シミュレーションを行い、ダイス形状を調整した。</p>
5	<p>アルミニウム板生産技術研究部会</p> <p>【開催期間】 令和元年4月-令和5年3月末</p>	<p>アルミニウム板製品の表面欠陥についての分類から始まり、発生メカニズムの整理、防止策の検討や事例紹介、また、表面欠陥の検出技術についても議論検討しレベルの向上を図る。最終的には事例集を中心に報告書を作成する。</p>	<p>3回(令和元年6月7日、8月30日、12月13日、令和2年3月27日は中止)の研究部会を開催。</p> <p>①圧延トラブルの事例(ミル火災や歪・板厚不良などの一般的な圧延トラブル及びベアリングの破損などの設備トラブルなど)について、各社認識合わせを進め、事例の抽出を順次開始した。</p> <p>②事例抽出項目(コイルハンドリングタイミング、発生場所)の明確化を行った。</p> <p>③対策事例の各社紹介を通じて認識の共有化を進めた。</p>
6	<p>新エネルギー向け表面処理研究部会</p> <p>【開催期間】 平成27年4月-令和2年3月末(1年延長終了)</p>	<p>新エネルギー分野(太陽、風力、地熱、海洋、シェールガス、メタンハイドレート関連等)向けアルミニウム部材の表面処理について、耐食性、耐候性、耐摩耗性、等の比較調査を行ない、新機能付与の可能性も検討する。環境に配慮した非クロム系処理や自己修復機能を有する塗膜等の最新技術も検討する。</p>	<p>3回(令和元年4月17日、7月12日、10月23日、令和2年3月13日は中止)の研究部会を開催。部会報告書執筆分担を決定し、後継部会は立ち上げないこととした。成果発表は個別に軽金属(大会、学会誌)で行うこととし、これを前提に、令和2年11月までに報告書を発行することとした。</p> <p>①耐アンモニア性: 364日目においても、陽極酸化皮膜は良好維持した。</p> <p>②耐スケール性: スケール付着量の誤差(評価面以外への付着)を補正した結果、再現性が確認された。ポアワイドニング法で細孔サイズを変化させた皮膜のスケール付着性を確認した。</p> <p>③海水浸漬・海岸暴露: 18か月後の状況確認。いずれも今年度中に最終回収。</p> <p>④伝熱性: 切削アルミプレートに陽極酸化すると、無処理プレートより1桁熱抵抗が増大した。チタンと比較するには実用に近い</p>

			形状のプレートが必要。
7	アルミニウム中の水素と材料物性研究部会 【開催期間】令和元年4月-令和5年3月末	アルミニウムに過飽和に固溶する原子状水素とそれが分子状水素として析出したポアやプリスターなどのマイクロ欠陥の生成、成長および消滅、およびそれらがアルミニウムの材料物性に及ぼす影響を調査し、水素やマイクロ欠陥制御による特性改善の可能性を議論する。	2回(令和元年7月4日、11月6日、令和2年3月6日は中止)の研究部会を開催。 ①部会の進め方や共通試料に関するアンケートによって、研究の進め方を議論し、共通試料を水素脆感受性評価用:2XXX合金、6XXX合金、7XXX合金と水素分析・プリスター研究用:2N、4N、5XXX合金とした。 ②水素量を調整した共通試料の作製およびその評価担当を決定した。 ③アルミニウム中の水素挙動、水素分析・解析事例など講師による研究事例紹介を行った。
8	アルミニウムの凝固・微細化・清浄化研究部会 【開催期間】平成27年4月-令和2年3月末(1年延長終了)	アルミニウムおよびアルミニウム合金の凝固組織の等軸晶化・微細化に関する改めての検討を通じて、微細化に寄与せず介在物化するTiB ₂ のメカニズム解明を行うとともに、介在物除去研究も行う事で、より高品質な製品製造に寄与する研究を行う。	3回(令和元年4月19日、9月2日、12月19-20日)の研究部会を開催。 ①AA-TP1準拠微細化能試験6000系のデータの取得を完了した。 ②第137回秋期大会にてテーマセッションを開催し、基調講演1件、10件の研究成果発表を行った。 ③研究成果を会誌「軽金属」2020年11月特集号に掲載を計画した。
9	アルミニウム接着接合研究部会 【開催期間】令和元年4月-令和5年3月末	アルミニウム材の接着特性、とりわけ長期信頼性が確保できることを念頭に置き、①アルミニウム素材の表面処理と接着現場での前処理による表面性状と接着メカニズムの解析、②劣化を模擬する試験条件の検討と標準化、③耐久性劣化メカニズムの解析、④劣化予測技術への足がかり、等を検討する。	5回(令和元年4月8日、6月10日、8月26日、11月18日、令和2年2月27日)の研究部会を開催。先行技術調査や予備試験(素材、前処理、評価技術の選定)検討をおこなった。 ①接着技術の動向、基礎知識、ニーズ、表面処理技術などについて、各会員からの情報提要进行した。 ②東工大試験設備、接着予備試験を見学し、基礎的な評価技術を把握した。 ③ラボ洗浄材を用いた接着せん断試験を実施し、試験結果を考察した。
10	チタンの準安定相・析出相研究部会 【開催期間】平成27年4月-令和2年3月末(1年延長終了)	チタン中の準安定相・析出相が形成される機構解明、微細組織および諸特性との関係に関する実験的研究、準安定相・析出相形成予測に関する計算材料学的研究を行い、準安定相・析出相制御を通してのチタンの高機能化と低コスト化の可能性を検討する。	3回(平成元年9月26日、12月19日、令和2年2月26日)の研究部会を開催。後継部会は設置せず、日本チタン協会内の若手交流会を発展させたチタン学会で、チタン部会のような研究者交流の場を検討することとなった。 ①α+β型チタン合金特性について、計算との整合性に関する議論、Ti-5Nb-(0.5、0.7)O材の引張特性、加工性、靱性のデータが議論された ②β型チタン合金ではTi-Nb系における機械的特性やω相の安定性に関する酸素の影響に関する議論を行った。 ③研究部会報告書作成スケジュールを3月原稿提出、8月発行と決定した。
11	異種金属接合部の腐食挙動予測研究部会 【開催期間】平成27年4月-令和2年3月末(1年延長終了)	車両・建材等の構造部材の鋼/アルミニウム、亜鉛/アルミニウムのような異種金属接合部の腐食挙動を予測する。	4回(令和元年4月16日、10月4日、11月29日、令和2年3月4日)の研究部会を開催。研究部会を1年延長したが、腐食挙動(浸漬条件、大気腐食環境)に関する電気化学的パラメータのデータベースが不十分であるため、電気化学パラメータの収集し、データベース整備することが課題である。 ①これまでの試験結果を整理し、再現性および現象の詳細解析のために、再試験、追試を実施した。 ②アルミニウム・その合金/炭素鋼からなる異材接合材の浸漬、SST、CCTの試験結果と異種金属接触腐食シミュレーションとの整合性を考察し、報告書の内容を議論した。
12	汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会 【開催期間】令和元年4月-令和5年3月末	汎用性の高い合金(資源偏在性の少ない安価な、かつリサイクルが容易な合金)を対象として、その性能・使いやすさを継続的に改善していく。構造部材としての信頼性(クリープ特性、耐食性、疲労特性等)や、評価手法の確立などにも焦点を当てる。	2回(令和元年7月12日、11月1日、令和2年3月10日は延期)の研究部会を開催。軸力クリープ、応力腐食特性の従来評価法の調査を行った。 ①ボルト軸力クリープ試験 先行技術調査とともに、軸力測定を行うための材料選定、実験条件に関する議論を行った。 ②応力腐食試験 JIS応力腐食試験の調査を行い、参加委員が所有する連続浸漬試験機や外注での間欠浸漬試験を実施することが議論さ

			れた。
13	加工熱処理工程における動的/静的組織形成予測部会 【開催期間】 令和元年4月-令和5年3月末	我が国独自のアルミ製造技術に貢献できる材料組織形成シミュレーションの構築を目指す。加工中の動的組織変化および最終組織の機械的特性に影響を及ぼす一要因に挙げられる、高温変形過程における第二相粒子などの動的析出挙動についてのデータベース構築および動的観察技術の可能性を模索する。	3回(令和元年6月20日、9月27日、12月17日、令和2年3月16日は延期)の研究部会を開催。部会勉強会教材とし、Virtual fabrication of aluminium products: microstructural modeling in industrial aluminum productionを次年度より輪講を実施する。 ①学側委員の研究事例紹介を行い、SPring-8 ビームラインでの高温引張試験中の In-situ XRD 測定による熱間加工中の動的な組織変化観察、TEM による転位と粒界の反応の動的組織解析など部会での応用を検討した。 ②前期検討したシミュレーションを発展させ、熱間境界条件(面圧・摩擦等)を定量的に同定し、冷間(複数パス)/熱間加工シミュレーションを検討する。 ③前部会の課題、i)ナノサイズの析出物構造解析と分散状態をTEMで調査 ii)熱間加工中の動的析出挙動の解明 iii)析出挙動に及ぼす不純物元素(Si, Fe)量の影響解明について追加試験を実施するとともに、今期検討する供試材、実験内容について企業メンバー要望を取りまとめ中。
14	アルミニウムのトライボロジー研究部会 【開催期間】 平成27年10月-令和2年3月末(1年延長終了)	アルミニウム圧延でのロールコーティング生成におよぼす影響因子の解明を目的に、摩擦摩耗試験を用いた工具とAlの凝着現象研究や、純Al系材質とAl-Mg合金系材質でのロールコーティングの生成挙動の比較を行う。	3回(令和元年10月17日、11月20日、12月16日)の研究部会を開催。 ①素地形状とロールコーティング起点との関係性明確化:駒同一箇所の圧延前後の表面粗さ(面および線)を解析。ロール凹部を起点に厚い付着物が生成している箇所を確認し、罫書きの後方には局所的に付着物が生成しており、罫書きの凹みやバリの影響と推定。 ②油種の違い:エステルは塊状に付着、オレイン酸は筋状に付着、鉱油は両者の中間であった。
15	アルミニウム製造副産物のアップサイクル研究部会 【開催期間】 平成30年4月-令和4年3月末	副産物の主成分である酸化物を安価で簡易に高純度化するアップサイクルプロセスを研究・議論し、耐火材原料やセメント原料等への市場開拓を実施する。	3回(令和元年4月18日、7月26日、令和2年2月28日)の研究部会を開催。企業3社が加入し、15社で部会運営。学側も学生3名含む4名が加入。部会が独自に設定した秘密保持、成果の取扱いに関するアップサイクル研究部会規約を作成し、委員に同意を求めた。 ①関連行政の許可を受け、大手アルミニウムメーカーの低品位ドロース残灰(集じん灰)の収集し、成分や粒度分布を調査した。 ②新規アプリケーションとして、フィラー材料に関する基礎試験を実施した。 ③セラミックス原料化に向けた代表集じん灰の湿式処理を実施した。
16	中・高温域におけるアルミニウム合金の機械的特性に関する研究部会 【開催期間】 平成30年4月-令和4年3月末	各種合金における100-400℃付近の温度における各合金の変形抵抗、特に成形時の高ひずみ速度における特性をデータベース化し、熱利用成形の普及を図る。	3回(令和元年4月16日、7月23日、10月24日、令和2年3月13日は延期)の研究部会を開催。 ①温間成形加工に必要な温間摩擦実験の検討開始 ②熱利用成形シミュレーション手法で必要なデータを板材・バルク材の2種類について検討するグループ分け・材料の設定を実施した。 ③温間成形加工実験(引張試験、圧縮試験)方法を決定した。
17	アルミニウム溶湯による耐火物の損傷プロセス研究部会 【開催期間】 平成30年4月-令和4年3月末	耐火物損傷プロセスを溶湯成分、耐火物種等から調査し、特徴を分離、データベース化し、耐火物・溶湯品質の改善に繋げる。	3回(令和元年4月23日、9月10日、令和2年1月24日)の研究部会を開催。 ①溶湯と耐火物の反応による耐火物の損傷の進行に伴う変質層の変化をX線回折や、高分解能組織観察により調査した。変質層は多結晶スピネルから多結晶コランダムへと変化した。 ②スピネルを骨材としたるつぼを作製し、アルミナるつぼと溶湯汚染状況を比較した。 ③アルミナ-シリカ質るつぼのX線CT分析を実施した。
18	高強度アルミニウム合金部会 【開催期間】 平成30年4月-令和4年3月末	巨大歪み加工や合金組成制御した時効析出を利用したアルミニウム合金の高強度化技術を一元的に整理し、実用高強度合金の開発に資する基礎的知見として体系化する。	3回(令和元年6月7日、10月31日、12月12日、令和2年3月23日は延期)の研究部会を開催した。 ①部会で扱う共通試料(Al-Cu-Mg-Cr系、Al-Mg-Si-Cu-Cr系、Al-Zn-Mg-Cu-Cr系、Al-Fe-Cr系)を軽圧メーカーで作製し、学側委員に配布した。今後、各種高強度加工を行い、特性評価を実施予定。 ②長野鍛工の大型HPS装置の見学は台風被害により延期、北

			海道大学の中性子設備見学はコロナウイルス対策により中止した。
19	LPSO/MFS 構造材料研究会 【開催期間】 令和元年4月-令和5年3月末	ミルフィーユ構造(MFS構造)は、Mg合金のみならずAl合金やTi合金においても形成される可能性が高く、軽金属材料に革新をもたらすことが期待される。そこで、軽金属材料を中心にLPSO構造やMFS構造を持つ新物質の創製を試みることに、その構造とキンクの制御により高強度の軽金属材料の創成を試みる。	2回(令和元年7月26日、11月1日、令和2年3月は延期)の研究部会を開催。研究部会設置の最初の年度であるので、LPSO/MFS構造についての最新研究の情報共有化を図るとともに、次年度以降の本研究部会の運営方針の参考とするためにメンバー企業の本研究部会に対する要望などの調査を行った。 ①本研究部会の趣旨の共有化を図るとともに、LPSO構造とMFS構造、キンク変形とキンク強化、マグネシウム・アルミニウム・チタン合金への展開、セラミックス・高分子材料への展開可能性について議論した。 ②メンバー企業から、企業で実施している研究内容の紹介、本研究部会への要望や期待する事を発表して頂き、次年度以降の本研究部会の運営方針について議論を進めた。 ③研究部会終了後に交流会を実施するとともに、大学の研究室見学会(東京農工大学)を実施した。

[5]研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)

1. 研究・業績の表彰

それぞれ選考委員会において選考を行い、理事会での承認を得て、(1)および(7)1)を令和元年5月開催の第136回春期大会にて、(2)~(5)および(7)2)を令和元年11月開催の第137回秋期大会にて表彰を行った。(6)については、令和2年2月末に表彰楯を各大学、高等専門学校へ送付し、卒業・修了など相応しい時期に表彰を託した。(9)軽金属学会企業奨励賞は各支部で表彰を行った。

(1)令和元年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞表彰

前年度の軽金属学会賞・功労賞・功績賞選考委員会で選考され、理事会で承認された下記3名を表彰した。

- | | | |
|----------------|---|--|
| 1)第22回軽金属学会賞 | 東京工業大学 教授 | 熊井 真次 君 |
| 2)第21回軽金属学会功労賞 | (一社)軽金属溶接協会 専務理事
産業技術総合研究所 材料・化学領域
研究戦略部 副連携研究ラボ長 | 相浦 直 君

田中 宏樹 君 |
| 3)第17回軽金属功績賞 | 喜多方軽金属(株) 代表取締役社長
大阪大学 教授
富山県立大学 教授
九州大学 教授 | 照田 伸二 君
荒木 秀樹 君
鈴木真由美 君
戸田 裕之 君 |

(2)令和元年輕金属論文賞・論文新人賞

廣澤渉一推薦委員長のもとで論文賞対象論文55編の内13編、新人賞対象論文20編の内7編の論文を推薦し、久幸晃二様選考委員長のもとで1編(6名)の論文賞、3名の新人賞を選考した。

1)論文賞

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------|
| ①「半凝固状態のアルミニウム合金の最大引張応力および伸び値の支配因子」 | 第69巻4号(2019)255-262掲載 |
| 早稲田大学 (現(株)IHI) | 高井 量資 君 |
| 早稲田大学 (現ホンダエンジニアリング(株)) | 広原 嶺 君 |
| 早稲田大学 (現(株)クボタ) | 遠藤 直輝 君 |
| 早稲田大学 | 永田 益大 君 |
| 産業技術総合研究所 | 岡根 利光 君 |
| 早稲田大学 | 吉田 誠 君 |

2)論文新人賞

- | | |
|---|-----------------------|
| ①「Al-Mg合金およびAl-Si合金の溶質濃度が均一伸びと転位組織に及ぼす影響」 | 第69巻3号(2019)180-185掲載 |
| 九州大学大学院・(株)神戸製鋼所 | 越能 悠貴 君 |
| ②「Al-Cu-Mg合金とAl-Zn-Mg-Cu合金の粒界破壊に及ぼすZr添加の影響」 | 第69巻4号(2019)235-241掲載 |
| 大阪府立大学(現 日本製鉄(株)) | 大手 里奈 君 |
| ③「TEM内その場観察によるベータ型チタン合金の変形挙動解析」 | 第69巻5号(2019)273-280掲載 |
| 茨城大学大学院(現 (株)日立パワーソリューションズ) | 小野瀬航平 君 |

(3)第54回小山田記念賞

高山善匡選考委員長のもと、応募技術1件について検討の結果、当該技術1件を選考した。
「吸音仕上げ材アルミシモの開発」

- | | |
|------------|---------|
| 日本軽金属(株) | 崎本 佑 君 |
| 理研軽金属工業(株) | 小池 夏樹 君 |

(4)第42回高橋記念賞

荒木秀樹選考委員長のもと、各支部からの推薦4件について選考委員による書面審査の結果、4名を選考した。

(独法)造幣局	江口 秀夫 君
(株)UACJ	片岡 秀文 君
(株)神戸製鋼所	柴田 和宏 君
日軽松尾(株)	土屋 正一 君

(5)軽金属奨励賞・躍進賞・女性未来賞

久保田正広選考委員長のもと、3つの賞について審議し、躍進賞は応募6名の候補者のうち3名を、奨励賞は8名の候補者のうち3名を、女性未来賞は1名の候補者を選考した。

- | | | |
|----------------|-----------------------------|-------------------------------|
| 1)第18回軽金属躍進賞 | 大阪大学
(株)豊田中央研究所
香川大学 | 小椋 智 君
川畑 博之 君
松本 洋明 君 |
| 2)第37回軽金属奨励賞 | 九州大学
三菱アルミニウム(株)
東北大学 | 清水 一行 君
鈴木 貴史 君
山本 卓也 君 |
| 3)第11回軽金属女性未来賞 | (株)UACJ | 三原 麻未 君 |

(6)令和元年度軽金属希望の星賞

各支部からの一次推薦33名について、総務委員会による二次選考の結果、33名全員を選考した。

所属	氏名	所属	氏名
旭川工業高等専門学校専攻科	柳本 はるの 君	工学院大学大学院	小島 智之 君
北海道大学大学院	孫 天航 君	山梨大学大学院	安江 航紀 君
東北大学大学院	内山 愛文 君	山梨大学大学院	折井 天悟 君
東北大学大学院	山下 毅 君	富山大学大学院	太田 悠介 君
芝浦工業大学大学院	宮下 智弘 君	名古屋大学大学院	高木 力斗 君
茨城大学大学院	大淵 知之 君	名古屋工業大学大学院	亀甲 真 君
茨城大学大学院	木村 拓也 君	兵庫県立大学大学院	平田 雅裕 君
茨城大学大学院	井上 泰一 君	兵庫県立大学大学院	田中 芹奈 君
茨城大学大学院	佐野 亮太 君	兵庫県立大学大学院	西久保裕貴 君
東京工業大学大学院	沖原 麻耶 君	神戸大学大学院	五枝龍太郎 君
東京工業大学大学院	佐野 悠太 君	大阪大学大学院	川端 はじめ 君
日本大学大学院	石井 翔太 君	関西大学大学院	藤川 翔平 君
日本大学大学院	河村 宥成 君	広島工業大学大学院	城戸 竜太 君
東京大学大学院	原 聡宏 君	熊本大学大学院	林 昂佑 君
東京大学大学院	木下 亮平 君	熊本大学大学院	西本 宗矢 君
東京農工大学大学院	三宅 能安 君	熊本大学大学院	川上 智大 君
首都大学東京大学院	藤森 佑太 君		

(7)優秀ポスター発表賞、優秀英語ポスター発表賞

本賞は春秋大会で行われるポスターセッションで発表した優秀者に贈る賞で、今年度は以下の通り春期大会で12名、秋期大会で16名を表彰した。このうち、第135回秋期大会より新設した優秀英語ポスター発表賞は各々1名を表彰した。

1)第136回春期大会

題目	所属	氏名
高純度アルミニウム単結晶マイクロピラーの強度のサイズ依存性に及ぼす冷間圧延の影響	名古屋大(院)	上杉真太郎君
α -Al/T-Al6Mg11Zn11 二相共晶合金の高温強度	名古屋大(学)	相川 宗也 君
ギ酸塩被膜付与亜鉛シートを用いた鑄造用アルミニウム合金の液相拡散接合界面組織に及ぼす熱処理の影響	群馬大(学)	篠原 勇人 君
Al-Mg-Si 合金と Al-Mg-Zn 合金のセレーション挙動	九州大(院)	三池 友樹 君
A7050 析出強化型アルミニウム合金のナノインデンテーションによる微細組織と応力解析	東京工業大(院)	村松 遼 君
鋭敏化処理した 5083 アルミニウム合金溶接材の耐水素脆化特性	茨城大(院)	大淵 知之 君
連続繰返し曲げ加工された 2024 アルミニウム合金の応力緩和過程での組織変化	宇都宮大(院)	三浦 亘貴 君
異なる LPSO 相量を有する Mg-Zn-Gd 系合金圧延材の機械特性と組織の関係	東北大(院)	内山 愛文 君
減圧下における溶融アルミニウム中の亜鉛の蒸発速度	東北大(院)	沼田 春子 君
マグネシウムの高速変形特性に及ぼすマンガンの影響	神戸大(院)	五枝龍太郎君
Fe-Al 抵抗スポット溶接継手の接合強度に及ぼすアルミニウム合金板における酸化皮膜除去の影響	大阪工業大(学)	秋月 健太 君
英語: Preparation of a silane/Mg(OH)2 corrosion resistant composite film on flame-resistant Mg-4Al-1Ca Alloy by steam coating and spin coating using two kinds of silane molecules	芝浦工業大(院)	宮下 智弘 君

2)第 137 回秋期大会

題 目	所 属	氏 名
Gd および Y の添加量の最適化による Mg-Gd-Y 合金押出材の高強度化	長岡技術科学大学(院)	森陽一朗君
電子ビーム三次元積層造形法で作製した TiAl 合金造形体の形状が微細組織および力学特性に与える影響	大阪大学(院)	川端はじめ君
Al-0.62 mass%Mg-0.34 mass%Si 合金における粒界近傍の力学特性と時効析出挙動の関係	北海道大学(院)	橋本 拓也 君
Mg-3Al-0.4Mn(mass%)合金圧延板材の機械的性質に及ぼすプロセス条件の影響	長岡技術科学大学(院)	大橋 秀亮君
ナトリウムを含む Al-5%Mg 合金の粒界破壊に及ぼす微量ボロン添加の影響	大阪大学(院)	清田 拳斗 君
Ti-6Al-4V 合金の室温クリープ変形挙動の評価	九州大学(院)	出口 岬 君
ZrAlNiCu 金属ガラス薄帯を挿入材に用いた SUS304/CP-Ti 板抵抗溶接材の機械的特性	宇都宮大学(院)	笠原 光 君
In-situ XRD 測定を用いた析出強化型 Mg 合金における引張変形中の活動すべり系の評価	兵庫県立大学(院)	吉川 友貴 君
マグネシウム合金の炭酸塩およびホウ酸塩緩衝水溶液における分極挙動	関西大学(院)	藤川 翔平 君
Mg-Zn-Y 合金急冷薄帯固成形材の疑似体液中での腐食及び応力腐食割れ挙動	熊本大学 (院)	酒井 優 君
ポーラスアルミニウムの発泡中のプレス加工が気孔形状に及ぼす影響	群馬大学(院)	川戸 大輔 君
Ti-Mo-Fe 合金での熱処理挙動に及ぼす Fe に対する Mo 置換量の影響	関西大学(院)	三宅昭太郎君
473K 時効における Mg-Zn-Ag 合金の析出挙動	富山大学(院)	工藤 理恵 君
衝撃荷重下における Mg-Ca 二元合金の高温圧縮変形応答	神戸大学(院)	佐藤 涼太 君
Ti-4.5Al-3V-2Fe-2Mo 合金板材の母材部・溶接部の超弾性特性に及ぼす多段階熱処理の影響	東京大学(院)	大畑 耕太 君
英語: Effect of solution treatment on mechanical properties and hydrogen embrittlement behavior of severely cold-rolled Al-alloys	茨城大学(院)	Mahdiah Safyari 君

(8)令和 2 年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞

岡本一郎選考委員長のもと、3 つの賞について審議の結果、学会賞は 1 名の候補者を、功労賞は 2 名の候補者を、功績賞は 6 名の候補者のうち 3 名をそれぞれ下記のとおり選考した。表彰は令和 2 年 5 月開催の第 138 回春期大会にて行われる。

- | | | |
|------------------|--|------------------------------|
| 1)第 23 回軽金属学会賞 | 茨城大学 教授 | 伊藤 吾朗 君 |
| 2)第 22 回軽金属学会功労賞 | 北見工業大学 特任教授
昭和電工(株) アルミ圧延品事業部 | 鞆師 守 君
山ノ井智明 君 |
| 3)第 18 回軽金属功績賞 | 名古屋大学 教授
熊本大学先進マグネシウム国際研究センター 教授
大阪工業大学 教授 | 小橋 眞 君
河村 能人 君
羽賀 俊雄 君 |

(9)令和元年輕金属学会企業奨励賞

本賞は平成 26 年度より支部表彰していたものを平成 28 年度より本部表彰とするもので、各支部における軽金属に関する研究、技術開発、商品開発等において優れた業績を残した維持会員に贈る賞で、下記の通り、支部推薦の 2 社を表彰した。

ムツミ工業(株)	東海支部
日本マテリアル(株)	中国四国支部

[6]その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第 4 条 1 項第 6 号)

1. 人材育成

本部において、昨年同様、大学オープンキャンパスへの軽金属製品の供与・貸与事業を実施し、小中高生、教師、父兄への軽金属製品啓蒙を行った。今回も維持会員企業、日本アルミニウム協会の協力を得て、自動車用大型部品(フード、シリンドラブロック等)貸与を追加し、10校に製品提供し、各校の開催報告記事「はぐくむ」を誌誌、HPに掲載した。新たに、男女共同参画委員会では男女共同参画学協会連絡会が後援する「女子中高生夏の学校2019～科学・技術・人との出会い～」に出展し、約100名の女子中高生に軽金属製品啓蒙を行った。この他、日本産業技術教育学会が主催する第22回技術教育創造の世界「エネルギー利用」技術作品コンテスト(東京芸術センター2F ブルースタジオ)で軽金属材料を利用した高校生団体、中学生、小学生の各々1作品を表彰した。本事業は平成19年から実施し、これまで14作品(個人・団体)を表彰している。

また、各支部においても、学生会員を対象とした講演会、ポスター発表、見学会など、若手人材育成に関わる事業を実施した。

2. 若手の会、女性会員の会

(1)若手の会

- 第36回会合:第136回春期大会第2日目(5月12日)に実施。参加者27名(うち大学9名)。話題提供と質疑応答。
- 第16回若手育成のための合同会合:第136回春期大会前日に実施。参加者25名(うち学生3名、大学3名)。
- 第37回会合:第137回秋期大会第2日目(11月3日)に実施。参加者31名(うち大学11名)。話題提供と質疑応答。
- 第17回若手育成のための合同会合:第137回秋期大会前日に実施。参加者10名(うち学生1名、大学2名)。

(2)女性会員の会

- 第26回会合:第136回春期大会第1日目(5月11日)に実施。参加者25名(うち男性応援5名)。
- 第17回託児室設置:第136回春期大会中に実施。利用者なし。

第27回会合：第137回秋期大会第1日目(11月2日)に実施。参加者27名(うち男性応援9名)。
 第18回託児室設置：第137回秋期大会中に実施。利用者1名。

3. 中堅企業R&D支援

二次加工業界の多くを占める中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業R&D支援プログラム」の一環として、無料講演会、イブニングセミナー、相談会、出前講座などの行事を各支部で実施した。東海、中国四国支部では優れた技術開発を実施した維持会員企業を表彰する軽金属学会企業奨励賞授与を行った。本部では軽金属セミナーを録画したDVDの無料貸出を実施し、会員サービス向上による会員基盤増強を図った。また、春秋講演大会においては、ユーザー企業参加促進策として企業交流会を実施し、第136回春期大会では、「富山大会でまるわかり！北陸発の軽金属産業」と題して、北陸地域企業5社の講演を、第137回秋期大会では日本アルミニウム協会賞受賞企業1社と技術開発事例2社の講演を行い、技術交流、人材交流の場を提供した。

4. 支部活動

(1) 北海道支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部理事会、支部評議員会(1回) 2.講演会等 ①アルミ製品製造の高度化技術講演会 ②支部講演大会 ・4月(帯広) ・7月(北見) ③講演会 北海道大学共催 3.人材育成 若手育成支援事業：構造部材分科会(2回) 4.表彰関係 ①学生優秀講演賞 ②軽金属学会功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 5.維持会員加入勧誘活動 訪問活動継続	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 4月19日開催 8月5日臨時委員会開催。 12月3日開催 2.講演会等 ①中堅企業支援セミナー9月4日開催。 ②支部講演大会 ・4月19日開催(共催) ・7月5日開催(協賛) ・1月16、17日開催(協賛) ③8月12日開催 3.人材育成 一環として2、③実施。 4.表彰関係 ①支部講演大会で支部学生優秀講演賞表彰 ②北見工大・鞘師守先生を推薦、受賞 ③軽金属希望の星賞2名受賞 5.維持会員加入勧誘活動 勧誘継続も進展なし
特記事項) 1-1 2021年の第140回春期大会決定を通知。 1-2 第140回春期大会実行委員決定 委員長：高橋監事、副委員長：坂入理事、安藤支部長 1-3 第140回春期大会実行委員候補者を決定。軽金属希望の星賞支部一次選考を実施し、4-③の2名の推薦を決定。 2-①日本鑄造工学会北海道支部と共催「非鉄鑄物の高度化技術研究会 最先端技術セミナー」実施 「アルミニウム合金を中心とした非鉄鑄物に関する最新研究動向」 早稲田大学 吉田 誠 2-②支部講演大会 帯広市生涯学習センター 日本鑄造工学会北海道支部と合同開催。 ・全講演11件中、3件が軽金属関連。 ・「支部学生優秀講演賞」 北海道大大学院 Md. Saiful Islam ・平成30年度企業奨励賞のDBCシステム研究所の表彰式実施 ・特別講演実施 「金属材料の連続結晶粒微細化技術【RMACREO】とその応用」 リナシメタリ代表取締役 中村克昭 2-②北見工業大学で開催の金属学会鉄鋼協会合同北海道支部サマーセッションに協賛 札幌教育文化センターで開催の金属学会鉄鋼協会合同北海道支部冬季講演大会に協賛 軽金属学会北海道支部より計3件の講演発表。 2-③「マテリアルセミナー」 「JAEAにおける金属材料腐食メカニズム解明に向けた取り組み」 日本原子力研究開発機構 五十嵐誉廣、大谷恭平 4-③旭川高専専攻科：柳本はるの君、北海道大学大学院：孫 天航君	

(2) 東北支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会(2回)11月、3月 2.講演会等 ①主催講演会(3回) ②共催・後援行事(4回)	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 第2回はコロナウイルス感染拡大防止のため中止 2.講演会等 ①主催講演会 第1回9月25日 12名参加 ②共催・後援行事

<ul style="list-style-type: none"> ・青森表面技術講演会 八戸 ・第31回溶接・接合研究会 盛岡 ・日本バイオマテリアル学会東北ブロック講演会仙台 ・日本塑性加工学会東北・北海道支部 2019年若手研究発表会 山形 <p>3.人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手育成支援事業 学生ポスターセッション <p>4.表彰関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①高橋記念賞推薦 ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ③軽金属学会賞推薦 ④軽金属学会功労賞推薦 <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <ul style="list-style-type: none"> イブニングセミナー開催(3月) 軽金属学会企業奨励賞推薦 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月24日 28名参加 ・7月19日 41名参加 ・10月2日 86名参加 ・12月6、7日 69名参加 <p>3.人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月2日共催講演会にて開催、学生聴講27名 <p>4.表彰関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①推薦なし ②希望の星賞 2名推薦、受賞 ③推薦なし ④推薦なし <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス事情により中止
<p>特記事項)</p> <p>2-①第1回東北支部講演会八戸工業高等専門学校(八戸) 講師 香川高専 嶋崎真一、八戸高専 新井宏忠、東北大 コマロフセルゲイ</p> <p>2-②共催行事において、若手支援助成金を申請。東北地区学生によるポスター発表を開催し、東北地区の学生を招待し、基調講演・招待講演4件およびポスター発表を聴講させた。</p>	

(3)関東支部

計画	実施状況
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部運営委員会(4回)</p> <p>2.講演会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①第137回秋期大会(東京農工大)の実行援助 ②工場見学会 産業技術総合研究所つくばセンター、 宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センター <p>3.人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ①若手研究者講演発表会 <p>4.表彰関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④軽金属企業奨励賞 ⑤エネルギー利用技術作品コンテスト審査 <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <ul style="list-style-type: none"> セミナーや訪問活動を継続 	<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 4月22日、7月31日、12月2日、3月2日</p> <p>2.講演会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①実行委員会開催 第1回6月4日、第2回9月20日 第3回1月27日 ②工場見学会 12月9日開催 <p>3.人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ①8月18日～19日 22名発表 日本軽金属(株)蒲原製造所 <p>4.表彰関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日軽松尾(株)土屋正一氏、(株)UACJ 片岡秀文氏推薦、受賞 ②該当なし ③16名推薦、受賞 ④該当なし ⑤12月1日 2次審査へ出席 1月26日 表彰式へ出席 <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持会員入会 日軽松尾(株) ・中堅企業支援として8月22日 第35回軽金属学会セミナー「マグネシウム合金の基礎講座(第3回)」茨城開催を共催
<p>特記事項)</p> <p>3-①若手研究者講演発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講演「日本のアルミニウム産業の歴史と企業における研究・技術開発から商品への展開」日本軽金属(株) 穴見敏也 ・工場見学: 日本軽金属(株)蒲原製造所、グループ技術センター 	

(4)北陸支部

計画	実施状況
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①定例幹事会(2回) ②大会実行委員会(1回) <p>2.講演会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①春期講演会: 第136回春期大会開催のため無 ②秋期講演会: 11月11日(月)予定 <p>3.人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ①幹事研修会: 10月18・19日予定 	<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①4月16日、9月9日 ②2回開催 <p>2.講演会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①左記のとおり開催せず ②11月11日開催 <p>3.人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ①10月18、19日

②若手育成支援事業:7月予定 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 5.維持会員加入勧誘活動:随時	②7月3日より6回 4.表彰関係 ①推薦 なし ②推薦 なし ③1名推薦、受賞 5.維持会員加入勧誘活動 幹事会、春期大会にて声掛けした。
特記事項) 協賛事業 ①日本金属学会・日本鉄鋼協会北陸信越支部講演会 (7月2日、11月30日) ②日本・ノルウェーアルミニウム合金シンポジウム (6月10日、ポーランド) ③富山大学材料科学国際シンポジウム(ICPMAT) (9月2日～5日 韓国 慶北大学) ④第5回先端材料フォーラム(第17回軽金属国際ワークショップ) (10月2-5日 ANA クラウンプラザホテル富山) ⑤富山大学材料研究会 (9月26日、2月26日)	

(5)東海支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①総会 ②理事会(3回、但し第1回は運営委員会と兼務) 2.講演会等 ①講演会(1回) ②研究部会(航空機材料部会、プレス加工部会) 3.人材育成 ①若手ポスター発表会 ②若手の会(軽進会) 第25回 ③女性会員の会 ④中・高生向け工場見学会 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ③企業奨励賞推薦 5.維持会員加入勧誘活動 ①支部セミナー、相談会 ②TECH Biz: 支部活動展示、講演会	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①4月23日 名古屋工業大学 ②第1回 6月25日 名古屋工業大学 第2回 10月17日 名古屋工業大学 第3回 3月10日 メール審議 2.講演会等 ①4月23日 名古屋工業大学 講演2件、55名参加 ②航空機部会 (株)UACJ プレス加工部会(第12回) 1月17日 名古屋市工業研究所 21名参加 3.人材育成 ①10月7日 名古屋大学 32名参加 ②第25回 5月20日 (株)神戸製鋼所 大安製造所 第26回 10月30日 三菱アルミニウム(株)富士製作所 学生向け講演会 11月15日 名古屋大学 ③第10回 10月3日 ムツミ工業(株)小牧工場 4名参加 第11回 12月16日 名古屋工業大学 17名参加 ④新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、延期 4.表彰関係 ①(株)神戸製鋼所 大安製造所 柴田和宏氏推薦、受賞 ②名古屋大学大学院 高木力斗君 名古屋工業大学大学院 亀甲 真君 ③ムツミ工業株式会社推薦、受賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①9月30日 名古屋市工業研究所 講演3件、28名参加 ②2月5-6日 吹上ホール 講演4件 50名来場
特記事項) 2.①第1回講演会 テーマ「次世代の半導体」 「世界を変えた青色LED、世界を変える青色レーザー」 名城大学 竹内哲也 「高効率パワーエレクトロニクス機器に向けたWEG半導体デバイス技術 ~GaNおよびAlGaInを中心として~」 名古屋工業大学 三好実人 ②プレス加工部会 テーマ「塑性加工シミュレーションソフトウェア高度化の現状I(実演付き)」 日本塑性加工学会東海支部、特定非営利活動法人CAE支援ネットとの共催 「設計エンジニアを支援する塑性加工シミュレーションソフトの最新機能~DOE・実験計画方を中心に~」 (株)ヤマナカコーキン 金 秀英 「板成形シミュレーション高精度化への次の一手」 (株)JSOL 小川隆樹 「CAEを活用した塑性加工・熱処理プロセスにおけるミクロ組織予測」 (株)SCSK 星 雅人 3.②若手の会(軽進会) テーマ:「若手討論会~ものづくりの現場で働く若手技術者の日常~」 ヤマハ発動機(株)、(株)UACJ、三菱アルミニウム(株)、(株)神戸製鋼所、日本軽金属(株) ③女性会員の会 第10回 テーマ:「金型について勉強しよう!」 「ムツミ工業における金型づくりの変革~家業から産業へ~」 ムツミ工業(株)小牧工場長 後藤和彦 第11回 テーマ:「ライフプラン・キャリアプランを考える4」 (株)TYK 加来由紀恵	

	(株)UACJ 大同特殊鋼(株) (株)大同分析リサーチ 名古屋工業大学 日本軽金属(株) ヤマハ発動機(株)	三瓶祐子 堀 亜由美 河野真理亜 呉 松竹 清水さゆり 城井つくし
5.①支部セミナー テーマ:「IoTを活用したものづくり工場の生産性改善」 「進化するサーボプレスとクラウド型 IoT サービス」 「ボルト型圧電式荷重センサーを用いた加工プロセス可視化」 「IoT が起こす生産性革命ー初期費用 0 円で実現する IoT 導入事例ー」	(株)放電精密加工研究所 (株)ヤマナカコーキン 久野金属工業(株)	村田 力 金 秀英 久野功雄
②【講演会】TECH Biz EXPO2020 テーマ:「接合技術を中心とした最新の軽量化技術」 「軽金属学会の活動紹介」 「高強度難燃性マグネシウム合金展伸材の開発動向～強度と延性のバランスを実現するための研究開発～」	軽金属学会東海支部長 産業技術総合研究所 中部大学工学部教授	渡辺義見 千野靖正 石川孝司
「冷間スポット鍛造による異種金属接合」 「アルミ合金と超高張力鋼板の片側アクセス異種金属接合法～エレメントアークスポット溶接法(EASW)～」 (株)神戸製鋼所		鈴木励一
「ろう材不要の新ろう付技術“MONOBRAZA®”～炉中ろう付用アルミニウム材料の革新～」 (株)UACJ		黒崎友仁
【展示品】 軽金属学会・東海支部の紹介パネル、高強度難燃性マグネシウム合金の押出型材、冷間スポット鍛造による同種/異種金属継手、エレメントアーク溶接継手、MONOBRAZE フィンを使用した自動車エアコンコンデンサ		

(6)関西支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会(2回) ②支部幹事会(2回) 2.講演会等 ①支部シンポジウム ②見学会 2.①と同時開催 3.人材育成 ①関西軽金属サマースクール 2.①、②と同時開催 ②若手研究者・院生による研究発表会 ③大学院生フィールドワーク助成プログラム 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属学会功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④軽金属企業奨励賞 ⑤軽金属学会賞推薦 ⑥軽金属功績賞推薦 ⑦軽金属躍進賞推薦 ⑧軽金属奨励賞推薦 ⑨小山田記念賞推薦 ⑩軽金属女性未来賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①勧誘活動継続 ②出前講座	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①4月18日、12月23日開催 ②支部理事会同日開催 2.講演会等 ①「軽金属学会関西支部シンポジウム」9月19日 兵庫県立大学姫路工学キャンパス 49名参加 ②兵庫県立大学金属新素材研究センター 3Dプリンタ施設 49名参加 3.人材育成 ①56名参加 ②12月23日 関西大学千里山キャンパス 108名参加 ③神戸製鋼所、昭和電工、東洋アルミニウムで実施。参加大学は大阪大学、関西大学、大阪工業大学。3.②において成果を発表。 4.表彰関係 ①江口秀夫氏推薦、受賞 ②山ノ井智明氏推薦、受賞 ③6名推薦、受賞 平田雅裕君(兵庫県立大)、田中芹奈君(兵庫県立大)、西久保祐貴君(兵庫県立大)、五枝龍太郎君(神戸大)藤川翔平君(関西大)、川端はじめ君(大阪大) ④推薦なし ⑤推薦なし ⑥羽賀俊雄氏推薦、受賞 ⑦小椋 智氏推薦、受賞 ⑧推薦なし ⑨推薦なし ⑩推薦なし 5.維持会員加入勧誘活動 ①継続的に勧誘している。 ②出前講座2月27日、堺市産業振興センター 新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止
特記事項) 2. 講演会等 ①軽金属学会関西支部シンポジウム 「ケイ酸塩水溶液における陽極酸化を用いたマグネシウムの表面改質」	兵庫県立大学 山本宏明

「種々の手法による生体用チタン合金の表面酸化物コーティング」	兵庫県立大学	三浦永理
「溶射及びレーザー技術を活用した表面処理技術について」	トーカロ(株)	横田博紀
3. 人材育成		
① 関西軽金属サマースクール		
「金属 3D プリントについて」	兵庫県立大学	伊東篤志
「金属レーザー積層造形法によるアルミニウム合金の造形」	兵庫県工業技術センター	平山明宏
② 若手研究者・院生による研究発表会		
口頭発表		
「ひずみ異方性測定を用いた純マグネシウムにおける活動すべり系評価」	兵庫県立大学	平田雅裕
「クラッド板の冷間圧延で発生する内層の周期的なうねり現象」	大阪大学	前田宗一郎
「アルミニウム複合線材中のナノ組織分布のトモグラフィによる解析法の検討」	京都大学	林 杉
「低コスト Ti-Mn-V-Al 合金の相構成と熱処理挙動」	関西大学	崔 雨仙
「マグネシウムの衝撃引張変形応答に及ぼす溶質原子の添加効果」	神戸大学	五枝龍太郎
「難燃性 Mg 合金 MIG 溶接条件最適化のための実験と機械学習の併用による強度予測モデルの構築」	大阪府立大学	高畑太朗
企業による技術紹介:「Sn 添加アルミニウム箔の特性とその応用」	東洋アルミニウム(株)	村松賢治
特別講演:「アルミ電解コンデンサ用箔の技術変遷」	昭和電工(株)	山ノ井智明
5. 維持会員加入勧誘活動		
② 出前講座 ※新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止		
品質で差別化を図るセミナー ～アルミニウムの溶接と防食技術の最先端～		
「溶接の最先端技術紹介」	大阪大学	森貞好昭
「防食の最先端技術紹介」	関西大学	春名 匠

(7)中国四国支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会	1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 8月3日開催 岡山理科大学
2.講演会等 ①第12回支部講演大会(岡山理科大学)	2. 講演会等 ①8月3日 講演件数38件 66名参加 優秀講演賞13件、研究・開発奨励賞:2件
②研究会(2回程度 共催)	②第68回材質制御研究会 12月26日広島工業大学 第1回支部研究会 12月4日 愛媛大学 第69回材質制御研究会 1月31日鳥取大学
3.人材育成 ①若手フォーラム兼高校生のポスター発表(共催)	3. 人材育成 ①第45回若手フォーラム 11月29日 岡山国際交流センター3階研修室 第48回若手フォーラム 2月15日ピュアリティまきび
4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞)選考・授与	4. 表彰関係 ①推薦なし ②推薦なし ③城戸竜太君(広島工業大学)推薦、受賞 ④2.①参照 ⑤企業奨励賞 日本マテリアル(株)推薦、受賞
5.維持会員加入勧誘活動 ①勧誘活動継続	5. 維持会員加入勧誘活動 上記2①会場においてパンフレットを配布 日本マテリアル(株)入会

特記事項)

2. ②第68回 材質制御研究会 「マルチマテリアルを目指したマグネシウム合金-プラスチック異材接合」	広島工業大学	日野 実
「溶射基材の疲労強度に及ぼす複合前処理の効果」	呉工専	國安美子
「企業におけるアルミニウム合金開発 ～低熱膨張材料と複合材開発～」	昭和電工(株)	久幸晃二
「原子炉の寿命と金属材料学・転位論」	熊本大学	松川義孝
2. ②支部研究会 「Ti-8Mo合金のスピノーダル分解とα相生成」	岡山大学	鈴木雄基
「少量のO添加によって誘起されるTi-Nb合金のβ相スピノーダル分解」	名古屋大学	石黒雄也
「Ti-Mo, Ti-Nb, Ti-V, 合金のα”相スピノーダル分解に及ぼす酸素添加効果」	愛媛大学	小林千悟
「Pre-alloyed粉末を使用しない金属積層造形とこれを利用した生体用チタン合金の開発」	新居浜高専	當代光陽
「製造プロセス簡易型のβチタン合金の開発」	広島大学	井ノ下大誠
2. ②第69回 材質制御研究会 「形の科学×AI×材料工学」	名古屋大学	足立吉隆

「機械学習を用いた金属材料組織の解析」	広島大学	杉尾健次郎
「結晶塑性シミュレーションによる結晶組織と力学特性のブリッジング」	京都大学	浜 孝之
「有限要素法を用いた Dual Phase 鋼の微視的破壊条件の同定と硬質組織形態制御への発展」	鳥取大学	松野 崇
3. ①第 45 回若手フォーラム		
「Ti-10Mo-7Al 合金の短時間焼戻しで生じるマルテンサイト変態」	岡山大学	安野実希子
「Ti-8Mo 合金におけるマルテンサイトのスピノーダル分解」	岡山大学	鈴木雄基
「Ti-15V-7Al 合金の時効硬化に及ぼす焼戻し温度の影響」	岡山大学	真部侑司
「Ti-25Nb 合金において熱処理条件の違いによる微細組織、 α'' 相の変化の検討」	香川大学	伊井 杏
「軸対称有限要素法解析を用いた AZ31 マグネシウム合金円筒絞りしごき工程の検討」	岡山理科大学	後 公大
「Ni めっき処理した炭素繊維／アルミニウム複合材料の組織と熱伝導性」	鳥取大学	山本貴士
「変形双晶の発現による AZ31 マグネシウム合金薄肉円管の機械的性質変化」	岡山理科大学	趙 薪茗
「高温高圧合成により作製された二相構造をもつ Mg ₈₅ Zn ₆ Y ₉ の機械的特性」	愛媛大学	山内大輝
「真空レーザ積層造形したチタンの組織に及ぼす酸化物添加の影響」	鳥取大学	大津 彬
「酸化物を添加した純 Ti の 3D 積層造形体の機械的性質」	鳥取大学	大澤 守
「Bi 系高温はんだの組成最適化法と特性評価」	広島大学	山田耕平
「亜鉛系めっきによる高強度鋼の水素脆化機構の推定」	広島工業大学	岡田孝輝
「Fe-0.5C-2Mn 合金におけるマルテンサイトの組織形成過程」	島根大学	原 直也
「鉄中のらせん転位間相互作用の TEM 観察」	島根大学	田中 颯
「アルミナ基複合材料の組織と機械的性質に及ぼす BaCO ₃ 添加の影響」	鳥取大学	高須悠
「SiC 単結晶表面におけるフェムト秒レーザ照射誘起改質を応用した Ni 電極の作製」	徳島大学	水尾優作
「Ti-35Nb 合金の焼戻しにおける相変態の評価」	岡山大学	津田弘基
「無加圧式積層クラッドを用いた Nb-Al 系金属間化合物の作製」	松江高専	武田大地
3.① 第 48 回若手フォーラム		
「多軸ランダム振動を受ける材料の疲労寿命評価」	岡山大学	坂本惇司
「ショットピーニングによる機械加工面の化学特性変化と脆性抑制への適用」	岡山理科大学	竹村洋明
ポスターセッション 39 件(高校生の発表 14 件を含む)		

(8)九州支部

計画	実施状況	
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①役員会(2回) 第 101 回 九州工業大学 ②例会(2回) 第 102 回 不二ライトメタル(株)	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①②第 101 回役員会・例会 7 月 18 日 ①②第 102 回役員会・例会 2 月 7 日	
2.講演会等 ①合同学術講演会共催	2.講演会等 ①6 月 1 日 くまもと県民交流館パレア	
3.人材育成 ①若手研究発表会 ②中堅企業支援支部セミナー	3.人材育成 ①第 101 回例会にて合同学術講演大会での受賞学生による 受賞記念口頭発表を開催 ②第 102 回例会にて開催	
4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④合同学術講演会講演大会若手ポスター賞表彰	4.表彰関係 ①推薦なし ②推薦なし ③3 名推薦 ④若手優秀発表者、ポスター優秀発表者表彰	
5.維持会員加入勧誘活動 ①訪問活動継続	5.維持会員加入勧誘活動 ①令和元年度中堅企業支援支部セミナーの開催、技術相談	
特記事項)		
第 101 回例会		
「巨大ひずみ加工によりもたらされる原子の高速拡散」	九州工業大学	堀田善治
「各種分析評価法によるアルミニウム合金の初期相変態挙動とナノ析出組織の解明」	横浜国立大学	廣澤渉一
「局所的な 3D 歪み分布に起因する水素濃化挙動のケルビンフォース顕微鏡による直接可視化」	九州大学	藤原比呂
「Assessment of 3D Short Crack Closure in Ti-6Al-4V Alloy Utilizing Synchrotron X-ray Microtomography」	九州大学	Tubei Valary
「高延性および難燃性を有する Mg-Zn-Gd 合金の開発」	熊本大学	大元涼介
「Mg-Li 合金多結晶材における塑性変形挙動」	熊本大学	宮野 遥
第 102 回例会・中堅企業支援支部セミナー		
「アルミニウム合金の熱処理」	(株)UACJ	箕田 正
「ダイカストにおける溶湯射出挙動と湯流れシミュレーション」	日産自動車(株)	神戸洋史
「マグネシウム合金の塑性加工と開発動向」	不二ライトメタル(株)	佐々木美波

II. 処務の概況

[1] 役員等に関する事項

1. 役員

職名	氏名	常勤・非常勤	就任年月日 (最初の就任の時)	重任年月日 (現在の任期の開始時)	報酬	担当 *:委員長	現職名
代表理事・会長	岡本 一郎	非常勤	令和元年 5 月 10 日		なし	組織*	日本軽金属(株)代表取締役社長
代表理事・副会長	高山 善匡	同上	令和元年 5 月 10 日		同上	総合計画*	宇都宮大学教授
同上	荒木 秀樹	同上	平成 29 年 5 月 20 日		同上	支部* 総合計画	大阪大学教授
理事	北蘭 幸一	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	編集*	東京都立大学教授
同上	熊井 真次	同上	令和元年 5 月 10 日		同上	国際*	東京工業大学教授
同上	小橋 眞	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	総務、国際	名古屋大学教授
同上	斎藤 尚文	同上	令和元年 5 月 10 日		同上	企画 編集	産業技術総合研究所 構造材料研究部門 軽量金属設計グループ 上級主任研究員
同上	坂入 正敏	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	企画、総務	北海道大学准教授
同上	佐藤 裕之	同上	令和元年 5 月 10 日		同上	大会	弘前大学教授
同上	柴柳 敏哉	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	男女共同 参加会	富山大学教授
同上	戸田 裕之	同上	令和元年 5 月 10 日		同上	研究、支部	九州大学教授
同上	中山 栄浩	同上	令和元年 5 月 10 日		同上	大会*	山梨大学教授
同上	春名 匠	同上	令和元年 5 月 10 日		同上	研究	関西大学教授
同上	日野 実	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	大会、編集	広島工業大学教授
同上	御手洗容子	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	男女共同*	東京大学教授
同上	足高 善也	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	国際交流	東洋アルミニウム(株)執行役員 先端技術本部 技術戦略部長
同上	穴見 敏也	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	参加会* 国際	日本軽金属(株)グループ技術センター グループマネージャー
同上	池田 昌則	同上	令和元年 5 月 10 日		同上	企画 研究	(株)神戸製鋼所アルミ・銅事業部門 技術部 担当部長
同上	宇野 清文	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	総務 大会	三協立山(株)三協アルミ社 技術開発統括部 技術開発部部長
同上	橋内 透	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	企画*	ヤマハモーターエレクトロニクス(株) 代表取締役社長
同上	小山 克己	同上	平成 27 年 5 月 16 日	令和元年 5 月 10 日	同上	総務*	(株)UACJ 技術部主幹
同上	中沢 靖	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	総務 研究	(株)本田技術研究所 オートモービルセンター主任研究員
同上	久幸 晃二	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	編集	昭和電工(株) 融合製品開発研究所 副所長
同上	戸次洋一郎	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	研究*	(株)UACJ R&D センター 第 3 研究部 上席主幹
同上	山口恵太郎	同上	平成 27 年 5 月 16 日	令和元年 5 月 10 日	同上	男女共同 大会	三菱アルミニウム(株) 研究開発部長
監事	神戸 洋史	同上	平成 29 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 10 日	同上	監事	日産自動車(株)パワートレイン生産 技術開発本部 パワートレイン技 術企画部 シニアエキスパート
同上	池田 勝彦	同上	令和元年 5 月 10 日		同上	同上	関西大学教授

[2] 職員に関する事項

職名	氏名	常勤・非常勤	採用年月日	担当事務	備考
事務局長	石川和徳	常勤	平成 25 年 1 月 1 日	全般	平成 25 年 6 月 1 日就任
職員	前田その美	常勤	平成 8 年 4 月 1 日	庶務	
職員	木村明子	常勤	平成 8 年 4 月 1 日	編集	
職員	中村秀樹	非常勤	平成 28 年 2 月 1 日	経理	

[3]会議等に関する事項

1. 総会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
令和元年度 定時総会	元年 5 月 10 日	1. 平成 30 年度事業報告に関する件(報告事項) 2. 平成 30 年度決算報告に関する件(審議事項) 3. 令和元年度事業計画の件(報告事項) 4. 令和元年度収支予算に関する件(報告事項) 5. 名誉会員の推薦に関する件(審議事項) 6. 令和元年・2 年度役員の選任に関する件(審議事項)	1. 全員異議なく原案通り確認。 2. 全員異議なく原案通り承認可決。 3. 全員異議なく原案通り確認。 4. 全員異議なく原案通り確認。 5. 全員異議なく原案通り承認可決。 6. 全員異議なく原案通り承認可決。

2. 理事会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第 61 回	平成 31 年 4 月 25 日	【審議事項】 1. 令和元年度定時総会に関する件 ①平成 30 年度事業報告に関する件 ②平成 30 年度決算報告に関する件 2. 第 62 回理事会に関する件 3. 2019・20 年度役員候補変更に関する件 4. 会員異動に関する件 【報告事項】 1. 他学会との協賛事業の件 2. 常設委員会報告	【審議事項】 1. 全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全員異議なく、確認した。 2. 男女共同参画、研究、国際交流、大会運営、総合計画委員会報告。
第 62 回	元年 5 月 10 日	1. 会長及び副会長選任に関する件 2. 役員の業務担当に関する件	1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。
第 63 回	元年 6 月 28 日	【審議事項】 1. 常設委員会委員選任に関する件 2. 選考委員会委員選任に関する件 3. 軽金属躍進賞・奨励賞・女性未来賞選考に関する件 4. 第 138 回春期大会実行委員会委員構成案および予算書案に関する件 5. 規程類の改定 6. ICAA18 組織委員会・実行委員会構成案に関する件 7. 会員異動に関する件 【報告事項】 1. 役員変更登記に関する件 2. 他学会との協賛事業に関する件 3. 常設委員会報告 4. その他 ・参与会案内 ・学会指標 ・日本学術会議材料連合協議会幹事会 参加報告	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 投稿規程、著作権規程を原案の通り全員異議なく承認可決。 6. 原案の通り全員異議なく承認可決。 7. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全員異議なく、確認した。 2. 全員異議なく、確認した。 3. 編集、支部長会、総務、企画報告。 4. 資料に基づき報告。
第 64 回	元年 9 月 26 日	【審議事項】 1. 軽金属論文賞・論文新人賞、小山田記念賞、高橋記念賞選考に関する件 2. 規程改定に関する件 3. 会員異動、支部長交代に関する件 4. 常設委員会変更の件 【報告事項】 1. 他学会との協賛事業に関する件 2. 7 月・9 月の常設委員会報告 3. 高分子材料の講演大会テーマセッション講演許諾可否に関する件	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 軽金属論文賞、新人賞規程と同選考委員会運営細則、推薦委員会運営細則を全員異議なく承認可決。 3. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 4. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 理事会意見を集約。

第 65 回	元年 10 月 25 日	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 23 回軽金学会賞に関する件 2. 第 22 回軽金属学会功労賞に関する件 3. 第 18 回軽金属功績賞に関する件 4. 中間決算・監査報告 5. 著作物等の在り方検討 WG に関する件 6. 会員異動・選考委員交代に関する件 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 支部中間活動報告 2. 他学会との協賛事業に関する件 3. 9-10 月開催常設委員会報告 4. ICAA18 組織委員会キックオフミーティング報告 5. エネルギー利用技術作品コンテスト表彰に関する件 	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 原案の通り全員異議なく承認可決。 6. 原案の通り全員異議なく承認可決。 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 資料に基づき報告。 5. 関東支部選考担当、表彰日程報告。
第 66 回	2 年 1 月 22 日	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 軽金属希望の星賞、企業奨励賞選考に関する件 2. 第 139 回秋期大会実行委員会委員構成案および予算書案 に関する件 3. 研究部会新設、1 年延長の件 4. 令和 2 年度支部費配賦額に関する件 5. 各種規程類の改定に関する件 6. 会員異動、常設委員交代に関する件 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 137 回秋期大会収支報告の件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 常設委員会報告の件 4. エネルギー利用技術作品コンテスト表彰に関する件 	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 参与および参与会規程、託児室規程改定案を全員異議なく承認可決。 6. 原案の通り全員異議なく承認可決。 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 3 件表彰を報告。
第 67 回	2 年 2 月 20 日	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和 2 年度特別維持会員会費に関する件 2. 一般社団法人軽金属学会令和 2 年度定時総会開催に関する件 3. 会員異動に関する件 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度収支決算見込みおよび令和 2 年度予算案に関する件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 常設委員会報告の件 4. ICAA18 組織委員会、実行委員会報告 5. 令和 2 年度理事会日程に関する件 	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全異議なく予算案を確認した。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 資料に基づき報告。 5. 資料に基づき報告。
第 68 回	2 年 3 月 27 日	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和 2 年度事業計画に関する件 2. 令和 2 年度収支予算に関する件 3. 令和元年・2 年度役員補充選任に関する件 4. 規程の改定に関する件 5. 会員異動に関する件 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度活動報告および令和 2 年度活動計画について 2. 研究部会令和元年度事業報告および令和 2 年度事業計画について 3. 他学会との協賛事業の件 4. 常設委員会報告の件 5. 対策本部の新型コロナウイルス感染症対応について 	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 1 名の辞任を全員異議なく承認可決。新任候補者は次回承認予定。 4. 会費規程を全員異議なく承認可決。総会第 5 号議案書を次回、承認。 5. 原案の通り全員異議なく承認可決。 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全員異議なく、確認した。 2. 全員異議なく、確認した。 3. 全員異議なく、確認した。 4. 資料に基づき報告。 5. 2 月 28 日からの対応方針告知を承認。第 138 回春期大会開催可否決定について対策本部に一任。

3. 常設委員会
 (1)総合計画委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第12回	平成31年 4月25日	1. 平成30年度決算および平成31年度予算案について 2. 常設委員会平成29・30年度活動まとめと引継事項	1. 原案の通り確認。 2. 各委員会活動報告・引継事項確認。
第1回	元年6月28日	1. 前期委員会からの引継事項 2. 今期委員会活動計画 3. 人材育成事業 4. 会員増強WG 会費制度見直し 5. 著作物等のあり方検討WG 6. ICAA18 組織委員会・実行委員会構成案に関する件 7. その他 ・学会指標 ・日本学術会議材料連合協議会幹事会 参加報告	1. 原案の通り確認。 2. 原案の通り確認。 3. 今期製品供与・貸与状況を確認。 4. 常設委員会意見、予定を確認。 5. 前期電子化WG活動、今期活動を確認。 6. 原案の通り確認。 7. 理事会報告予定のため省略。
第2回	元年10月25日	1. 支部活動中間報告(中堅企業支援活動状況) 2. 上期決算報告 3. 令和2年度支部費配賦案 4. 総合計画委員会課題進捗 ①会員増強WG 増強策 ②著作物等のあり方検討WG ③ICAA18準備状況 ④ミルフィーユ関連の取扱 ⑤70周年記念事業の実施体制	1. 各支部長から活動報告。 2. 決算内容確認。 3. 配賦案承認。今後支部長合意確認。 4. 下記報告。 ①支部長会意見聴取。 ②WGメンバー決定し、活動開始。 ③組織委員会キックオフ。 ④春期大会テーマセッション講演を可能と決定。規程改定予定。 ⑤実行委員会メンバー決定。事業内容検討開始。
第3回	2年1月22日	1. 総務委員会報告 ①会費規程改定 ②託児室規程改定 ③著作物のあり方検討WG進捗 2. 会員増強WG報告 3. 70周年記念事業実行委員会報告 4. ICAA18組織委員会・実行委員会報告 5. その他 ①軽金属奨学会からの Mater. Trans. 投稿助成について	1. 会費規程は見直し、理事会上申中止。託児室規程は全員異議なく承認。③は利用、引用、参考の違いなど今後、あるべき姿のたたき台を作成。 2. 1月データ解析結果報告。 3. 祝祭的行事廃止案を今後検討。 4. 報告省略。理事会報告とする。 5. 助成内容、編集委員会での執筆者推薦、投稿依頼、査読など役割確認。
第4回	2年2月20日	1. 令和元年度収支決算見込みおよび令和2年度予算案に関する件 2. 会費規程改定について 3. 著作物のあり方検討WG進捗 4. 70周年記念事業委員会報告 5. 大会2.5日制見直しについて	1. 全異議なく予算案を確認した。 2. 収入減試算結果を確認し、改定を承認。 3. 検討項目について、認識共有。 4. 基本方針取りまとめを実施中。 5. 大会運営、支部長会から進捗報告。
第5回	2年3月27日	1. 令和元年度事業計画・予算案(第2次) 2. 令和元年度中堅企業支援事業活動報告 3. 会費規程改定 4. 70周年記念事業について ①基本方針確認と各部会への検討要請 ②準備スケジュール 5. その他 ①新型コロナウイルス感染症への対応方針 ②第138回春期大会対応策	1. 原案のとおり確認。 2. 8支部報告を確認。 3. 理事会上申案を承認。 4. 6月理事会に事業概要上申予定。各事業企画案について、意見調整の上、各部会に検討要請。 5. 2月末からの対策本部における学会対応方針決定、告知についての承認手順確認。春期大会開催可否判断を理事会で協議要請。

(2)総務委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第 283 回	元年 5 月 20 日	1. 人材育成検討 WG 報告 ・H31 年度製品供与・貸与事業 2. 規程・会員特典 WG 報告 ・投稿規程 ・著作権規程 ・託児室規程 ・会費延滞者の処置について 3. HP・広報 WG 報告 ・和英版ホームページのメンテナンス方法 4. その他 ・創立 70 周年記念事業	1. 下記実施事項検討。 ・7 名応募、対応状況を確認。 2. 下記実施事項検討。 ・原稿、記事を定義、和訳投稿の掲載判定手順追加を承認。 ・注意書き部分を削除して承認。 ・利用者負担軽減案の再検討要請。 ・実態を把握し、次期検討。 3. 毎年、関係する部分の見直しを常設委員会に依頼。HP のあり方について、次期引継事項にまとめる。 4. 2021 年開催に向けて、総務委員会担当予定の記念式典部会について内容確認。
第 284 回	元年 8 月 22 日	1. 引継事項と今期活動について 2. 人材育成検討 WG 報告 3. 規程・会員特典・式典検討 WG 報告 4. 広報検討 WG 報告 5. 維持会員増強 WG 報告 6. 第 137 回秋期大会アルミ缶ビール代寄付 7. 70 周年記念事業式典部会活動内容	1. 引継事項確認、WG メンバー承認。 2. 新規人材育成事業、高度人材育成事業について議論。 3. 託児室規程改定案簡略版議論。論文賞・論文新人賞規程、推薦・選考委員会運営細則改定。会費制度見直し具体策検討。著作物等に関するあり方検討 WG メンバー選考中。 4. HP 課題抽出、和英 HP メンテナンス方法・担当・ルール化など今後検討。 5. 総合計画委員会・会員増強 WG で対応、総務委員会へ協力要請。 6. 寄付承認。 7. 対応準備要請。
第 285 回	元年 10 月 21 日	1. 人材育成検討 WG 報告 ①新規人材育成事業検討 年代(小中高生、中高教員)毎の実施事業 ②他常設委員会との連携事業 ③軽金属科学実験室の事例追加 ④高度人材育成事業案 ⑤ライトメタルリクルート 2021 年度募集 インターンシップ募集 ⑥製品供与貸与事業:今期まとめと来期計画 2. 規程・会員特典 WG 報告 ①託児室規程再改定案 ②会費制度見直し ③著作物等に関するあり方検討 WG 3. HP・広報 WG 報告 ①ホームページ魅力アップ策、積極的 PR 策 ②他常設委員会との連携 ③和英版 HP のメンテナンス方法の検討、優先順位検討とルール化 4. その他	1. 下記実施事項検討。 ①他団体の事例を参照し検討。 ②第 137 回秋期大会事例を参照し検討。 ③HP アクセス数確認。検討継続。 ④検討継続。 ⑤前年同様実施。 ⑥前年同様実施。 2. 下記実施事項検討。 ①次回、修正案を審議。 ②会費規程改定案、事務負担軽減策を検討。 ③WG メンバー案を報告。 3. 下記実施事項検討。 ①役割分担を決めて改善検討。 ②大会運営委員会で講演発表・参加申込ページ改定中。 ③担当者を決めて判断。 4. 軽金属希望の星支部推薦枠承認。
第 286 回	2 年 1 月 17 日	1. 人材育成検討 WG 報告 ①軽金属科学実験事例の拡充 ②高度人材育成事業の具体化 ③2021 年度ライトメタルリクルート、インターンシップ募集 ④令和 2 年度製品供与・貸与事業 ⑤新たな人材育成事業案 2. 規程・会員特典 WG 報告 ①託児室規程案 ②会費規程案 ③著作物のあり方検討 WG 進捗	1. 下記実施事項検討。 ①委員 1 件提案。 ②企業ドクターに学生時代の要望聴取 ③募集増のための会告文追記 ④製品見直し、4 月会告。 ⑤検討継続 2. 下記実施事項検討。 ①承認し理事会上申たおした。 ②承認し総合計画委員会、理事会上申とした。 ③WG 議論内容を説明。

		④70周年記念行事について ⑤編集委員会規程類改定案 ⑥参与会規定改定案 3. HP・広報 WG 報告 ①和英ホームページメンテナンス方法の検討 ②大会講演・参加申込英語サイト修正案紹介 4. その他 ①希望の星賞2次選考 ②企業奨励賞確認	④記念式典は祝祭の行事廃止決定。 ⑤Materials Transactions 投稿規程、執筆要領、担当編集委員用審査要領案を差し戻しとした。 ⑥承認し理事会上申とした。 3. 下記実施事項検討。 ①常設委員会担当を決定、チェック依頼実施。総務委員会で事前チェック実施。 ②改訂状況確認 4. 下記承認、報告。 ①33名選考。 ②2社受賞確認。
第287回	2年3月24日	1. 人材育成検討 WG 報告 ・軽金属科学実験事例の拡充 ・2021年度ライトメタルリクルート、インターンシップ募集 ・令和2年度製品供与・貸与事業 2. 規程・会員特典 WG 報告 ・会費規程案 ・70周年記念行事について ・編集委員会規程類改定案 Materials Transactions 投稿規程 Materials Transactions 執筆要領 担当編集委員用審査要領 ・大会規程改定案 3. HP・広報 WG 報告 ・和英ホームページメンテナンス方法の検討 4. その他 ・WEB会議開催について ・第138回春期大会懇親会缶ビール代 ・令和元年度事業報告書案 ・令和2年度事業計画書案	1. 下記実施事項検討。 ・3件提案をHP掲載準備。 ・24社掲載。アクセス件数減少。 ・小型品20種、大型品20種決定。 2. 下記実施事項検討。 ・承認し総合計画委員会、理事会上申とした。 ・記念式典部会長に廣澤委員選任。 ・以下、見直しを要請した。 依頼した非会員投稿の費用支払い グラフィカルアブストラクト取扱 査読者への報告方法追加 ・一部修正要請した(承認扱い)。 3. 下記実施事項検討。 ・常設委員会担当、チェック表完成し、理事会で要請する。総務担当分は担当委員に振り分ける。 4. 下記承認、報告。 ・意見交換ができることを確認し、活用を検討する。 ・7社から寄付を承認。請求書発行。 ・総務委員会で確認依頼。 ・総務委員会で確認依頼。

(3)企画委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第11回	元年5月28日	1. 2019年軽金属基礎講座会告 2. アルミニウム合金の組織セミナー予定 3. 第111回溶湯処理シンポジウム 4. 新規シンポジウム・セミナー企画案 ・第112回航空機シンポジウム ・第113回マルチマテリアルシンポジウム ・第114回マグネ接合シンポジウム ・第115回鉄道車両シンポジウム ・第3回マグネシウムセミナー(水戸) ・チタンセミナー ・その他 5. 見学会企画 ・柳河精機・本田金属技術 ・日立製作所笠戸	1. 9月19、20日開催決定。 2. 入門、中級、応用編開催日、会場、世話人担当見直し検討。アンケート内容修正。 3. 6月14日開催。申込状況確認。36名参加。 4. 開催日程を下記の通り決定 ・9月開催 ・11月開催 ・12月開催 ・内容見直し、2020年開催 ・7-8月開催 ・2020年4月以降開催 ・ casting、冷間プレス成形予測シンポジウムを企画検討。 5. 見学会内容、日程を確定し、会告案を作成。
第1回	元年8月5日	1. 引継事項について 2. 第111回シンポジウム・セミナー開催報告 3. 直近の企画進捗	1. 会長方針を反映した今期活動計画、企画イベントの進め方を確認。 2. 資料に基づき報告。 3. 8月8日見学会、8月22日マグネシウム

		<p>4. 新規シンポジウム・セミナー具体案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 112 回航空機シンポジウム ・第 113 回マルチマテリアルシンポジウム ・第 116 回鋳造凝固シンポジウム ・第 117 回冷間プレス成形予測シンポジウム ・第 118 回構造材料表面処理シンポジウム ・アルミ合金組織セミナー(入門、中級、応用) <p>・チタンセミナー</p> <p>5. 軽金属基礎技術講座について</p> <p>6. その他</p>	<p>セミナー準備状況報告。</p> <p>4. 下記の通り、企画決定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9 月 13 日開催 ・11 月 29 日開催 ・2 年開催 ・2 年 9 月開催 ・2 年 10 月以降開催 ・入門編 9 回 12 月 6 日、中級編 8 回 2 月 6 日、応用編 6 回 3 月 6 日開催 ・2 年 11 月開催 <p>5. 準備状況確認。</p> <p>6. 国際交流委員会企画タイセミナー、企画委員会イベント収支報告。</p>
第 2 回	元年 10 月 16 日	<p>1. シンポジウム・セミナー等開催報告</p> <p>2. 新規シンポジウム・セミナー具体案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 114 回マグネシウム接合シンポジウム ・第 115 回鉄道車両シンポジウム ・第 116 回鋳造凝固シンポジウム ・第 117 回冷間プレス成形予測シンポジウム ・第 118 回構造材料表面処理シンポジウム ・車両工場見学(日立製作所笠戸事業所) ・マグネシウムセミナー第 4 回(つくば) <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加申込状況 ・シンポジウム企画討議 ・国際交流委員会企画 	<p>1. 資料に基づき報告。</p> <p>2. 下記の通り、企画検討中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年 3 月開催 ・令和 2 年 4-5 月開催 ・令和 2 年 6-7 月開催 ・令和 2 年 9 月開催 ・令和 2 年 10 月以降開催 ・未定 ・令和 2 年度開催(関東支部共催) <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・113 回マルチマテリアルシンポジウム、アルミ合金組織セミナー状況確認。 ・飲料容器、接合、チタン、粉末冶金、MI 他、テーマ議論。 ・ICAA 関連ヒルシュ先生講演会、フラウンホーファー第 2 弾フォーラム紹介。
第 3 回	2 年 1 月 15 日	<p>1. シンポジウム・セミナー等開催報告</p> <p>2. 新規シンポジウム・セミナー具体案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 114 回マグネシウム接合シンポジウム ・第 115 回鉄道車両シンポジウム ・第 116 回鋳造凝固シンポジウム ・第 117 回冷間プレス成形予測シンポジウム ・第 118 回構造材料表面処理シンポジウム ・車両工場見学(日立製作所笠戸事業所) ・マグネシウムセミナー第 4 回(つくば) ・第 119 回自動車シンポジウム ・第 120 回飲料容器シンポジウム ・第 121 回チタンシンポジウム ・第 122 回接合シンポジウム ・第 123 回分析・解析シンポジウム ・第 124 回 3D 造形シンポジウム、セミナー ・第 125 回衝撃、高速変形シンポジウム ・第 126 回金型シンポジウム <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加申込状況 	<p>1. 資料に基づき報告。</p> <p>2. 下記の通り、企画検討中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年 3 月開催を延期。 ・令和 2 年 4-5 月開催を延期。 ・令和 2 年 7 月前半開催。 ・令和 2 年 9 月 18 日開催 ・令和 2 年 10 月以降開催 ・受入不可、他車両工場見学検討。 ・令和 2 年度開催(関東支部共催) ・冷却技術をテーマとする。 ・令和 2 年 11 月開催。 ・世話人帰国後に調整。 ・内容について検討継続。 ・X 線残留応力測定や EBSD を検討。 ・検討継続。 ・次回企画案提案。 ・成形性を向上させる技術をテーマとできるか検討開始。 <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルミニウム合金の組織－中級編、応用編の申込状況を確認した。

(4)編集幹事会・委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
令和元年度 第 1 回編集 委員会	元年 5 月 12 日	<p>1. 軽金属誌の現況</p> <p>2. 規程類</p> <p>3. その他</p>	<p>1. 論文・記事数推移、引継事項確認。</p> <p>2. 著作権規程改定検討状況確認。</p> <p>3. 査読実施問題点改善を検討。原稿募集 びら配布方法見直し。</p>
第 608 回	元年 5 月 15 日	<p>1. 軽金属 6-7 月号の進捗状況報告</p> <p>2. 校閲状況報告・確認</p> <p>3. 軽金 7 月号掲載内容報告・確認</p> <p>4. 軽金属誌活性化状況報告</p>	<p>1. 進捗状況を確認。</p> <p>2. 校閲状況を確認。</p> <p>3. 掲載内容を確認。</p> <p>4. 各 G 検討結果報告。</p>

		<p>1)規程・投稿促進 G 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権規程(ガイドライン含む)改定案 ・投稿規程改定案 <p>・速報論文の英訳 Mater. Trans. 投稿取扱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投稿数推移と増加策検証 ・春期大会投稿勧誘案件と投稿状況 <p>2)解説・会報 G 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造設備解説 ・スポット解説 ・維持会員技術紹介 ・第 2 回トップ座談会 <p>3)特集・連載 G 報告</p>	<p>1)下記進捗確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直し案の総務委員会再上申。 ・和訳投稿記事種別、掲載判定追記案の総務委員会再上申。 ・日本金属学会判断待ち。 ・編集委員への投稿依頼。 ・23 件投稿勧誘。 <p>2)下記進捗確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8 月掲載開始。巻頭言承認。 ・編集委員案順次依頼、掲載。 ・従来の維持会員紹介を継続。 ・9 月実施、1 月号掲載。 <p>3)数値シミュレーション連載の巻頭言承認。</p>
第 609 回	元年 7 月 25 日	<p>1. 引継事項と今期活動について</p> <p>2. 軽金属 7-8 月号の進捗状況報告</p> <p>3. 校閲状況報告・確認</p> <p>4. 軽金属 9 月号掲載内容報告・確認</p> <p>5. 軽金属誌活性化状況報告</p> <p>1)規程整備 G 報告</p> <p>2)解説記事 G 報告</p> <p>3)連載講座 G 報告</p>	<p>1. 引継事項確認、G メンバー承認。</p> <p>2. 進捗状況を確認。</p> <p>3. 校閲状況を確認。</p> <p>4. 掲載内容を確認。</p> <p>5. 各 G 検討結果報告。</p> <p>1)投稿、著作権規程、担当編集委員用審査要領案、査読者リスト確認。</p> <p>2)日立製作所トップ座談会日程調整、スポット解説案次回リストアップ、維持会員紹介・私の一枚執筆依頼。</p> <p>3)令和 3 年 2 月号スタート連載講座案、特集号企画次回協議。年間レビュー 2 年分執筆者決定。</p>
第 610 回	元年 9 月 17 日	<p>1. 軽金属 10-11 月号の進捗状況報告</p> <p>2. 校閲状況報告・確認</p> <p>3. 軽金属 10 月号掲載内容報告・確認</p> <p>4. 軽金属誌活性化状況報告</p> <p>1)規程整備 G 報告</p> <p>2)解説記事 G 報告</p> <p>3)連載講座 G 報告</p>	<p>1. 進捗状況を確認。</p> <p>2. 校閲状況を確認。</p> <p>3. 掲載内容を確認。</p> <p>4. 各 G 検討結果報告。</p> <p>1)担当編集委員用審査要領案、英訳和訳投稿規程、Mater.Trans.投稿規程整備。</p> <p>2)日立製作所トップ座談会内容・日程決定、スポット解説案次回リストアップ、設備解説シリーズ原稿査読を LM レビューとして実施、私の一枚記事の依頼先リスト次回作成。</p> <p>3)2019 年間レビュー 11 月 3 日確定。</p>
令和元年度 第 2 回編集 委員会	元年 11 月 3 日	<p>1. 軽金属誌の現況</p> <p>2. 査読、掲載プロセスの迅速化</p> <p>3. 共同刊行誌 Mater. Trans. に関して</p> <p>4. その他</p>	<p>1. 新体制、今後の刊行予定確認。</p> <p>2. 担当編集委員用審査要領、査読要領確認。</p> <p>3. グラフィカルアブストラクト依頼、英訳・和訳投稿の内容同一性確認。</p> <p>4. 年間レビュー執筆者推薦ルール、ICAA18 プロシーディングス編集作業協力を確認。</p>
第 611 回	元年 11 月 28 日	<p>1. 軽金属 12-1 月号の進捗状況報告</p> <p>2. 校閲状況報告・確認</p> <p>3. 軽金属 1 月号掲載内容報告・確認</p> <p>4. 軽金属誌活性化状況報告</p> <p>1)規程整備 G 報告</p> <p>2)解説記事 G 報告</p> <p>3)連載講座 G 報告</p> <p>4)その他</p>	<p>1. 進捗状況を確認。</p> <p>2. 校閲状況を確認。</p> <p>3. 掲載内容を確認。</p> <p>4. 各 G 検討結果報告。</p> <p>1)担当編集委員用審査要領案見直し、英訳投稿規程(Mater.Trans.投稿規程)改定、グラフィカルアブストラクト追加。</p> <p>2)日立製作所トップ座談会報告。次回ゼネコン予定。スポット解説案次回リストアップ、設備解説シリーズ掲載順番変更、私の一枚記事の依頼先リスト次回作成。</p> <p>3)マルチマテリアル連載講座 2021 年 4 月開始、特集号世話人候補次回推薦。</p> <p>4)著作物のあり方検討 WG、ICAA18 論</p>

			文審査・論文集編纂 WG、70 周年記念事業実行委員会紹介。
第 612 回	2 年 1 月 29 日	1. 軽金属 2-3 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 3 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 規程整備 G 報告 2) 解説記事 G 報告 3) 連載講座 G 報告 4) その他	1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 各 G 検討結果報告。 1) 担当編集委員用審査要領案見直し、Mater.Trans. 投稿規程、執筆要領改定案総務委員会から差戻しにより再検討。 2) トップ座談会候補：横河ブリッジ。次回ゼネコン予定。スポット解説案：放射光設備、金属中の水素を見る、ナノインデンテーション講師案、設備解説シリーズ熱延、冷延、スリッター等執筆者代案検討、私の一枚記事の編集委員に執筆要請。 3) マルチマテリアル連載講座著者案、2021 年 4 月開始、特集号：住宅建材、チタン、超微細結晶粒材料、鑄造最新研究、積層造形検討。 4) 軽金属奨学会 Mater. Trans. 投稿助成、ICAA18 論文審査・論文集編纂 WG、英訳投稿 2 年延長 2020 年 4 月掲載から適用、印刷業者変更、論文掲載者特典(懇親会招待)、査読謝礼見直し。
第 613 回	2 年 3 月 16 日	1. 軽金属 3-4 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 5 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 規程整備 G 報告 2) 解説記事 G 報告 3) 連載講座 G 報告 4) その他	1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 各 G 検討結果報告。 1) 担当編集委員用審査要領案、Mater.Trans. 投稿規程、執筆要領改定案修正。 2) トップ座談会候補：横河ブリッジ依頼文書見直し。スポット解説 3 件著者決定。 3) 特集号：住宅建材、チタン、超微細結晶粒材料、鑄造最新研究、積層造形の特任編集委員へ依頼予定。 4) 論文投稿増加策検討。ICAA18 論文投稿、論文集(Mater.Trans. 特集号)発行等日程案報告。

(5)国際交流委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第 11 回	31 年 4 月 16 日	1. 課題対応まとめ 2. 軽金属国際賞の創設 理事会見送り対応 3. タイ講習会進捗 4. 引継事項 5. フラウンホーファーワークショップ企画 6. その他 ・国際会議便り ・台湾軽金属協会 ALFM2019 ・ICAA18 実行委員会 WG 委員案	1. まとめ案を 5 月末までに見直し。 2. 選考基準見直し、アンケートにより推薦候補洗い出しを実施する。 3. 6 月 21 日開催決定。費用半額、支払完了。講師テキスト準備、日系企業参加者勧誘など今後の予定確認。 4. 委員長引継事項承認。 5. 「モビリティ分野の最新成形技術」を 2020 年 1~2 月中旬開催計画。 6. 下記、報告。 ・ TMS の WEB (Global Meetings Calendar)より国際会議情報入手 ・11 月 7-8 日高雄開催、ALMA メンバー招待、講演者謝金提供。 ・委員案承認、プロシーディングス方針検討状況報告。
第 1 回	元年 8 月 28 日	1. 引継事項確認 2. タイセミナー開催報告	1. 引継内容を確認した。 2. アンケート結果、支出報告。次回開催はタイ TISTR 意向確認し、今後議論。

		<ul style="list-style-type: none"> 3. 台湾開催 AFLM2019 対応 4. 軽金属国際ワークショップ企画 5. 台湾軽金属協会関西地区工場見学対応 6. 優秀英語ポスター発表賞審査一本化 	<ul style="list-style-type: none"> 3. 日本講師選定、委員派遣検討。 4. ヒルシュ先生講演会 11 月 12 日開始、フ ラウンホーファー第 2 弾 1 月 31 日開催 予定。 5. 4 力所見学先決定。参加者募集中 6. 137 回、138 回大会は従来審査、139 回 からの審査一本化を検討。
第 3 回 ICAA18 準備 WG	元年 8 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 組織委員会・実行委員会メンバー案 2. ICAA 開催ガイドライン確認 3. プロシーディングス方針 4. 企業展示 5. 予算(収支、寄付等) 6. ICAA17(グルノーブル)プレゼンテーション 7. 10 月 8 日キックオフミーティング 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 富山現地実行委員追加後委嘱。 2. ポスター発表、表彰実施。 3. 従来 3 案に外部委託案を追加し検討継 続。 4. EV 関連、富山地区製品など展示案検 討。 5. 2 社費用見積 5000 万円。1-2 月業者選 定に向け、3 社目検討。 6. 1st サーキュラ配布 7. ICAA12 の時の活動内容振り返り
ICAA18 第 1 回 組織委員会 (キックオフ)	元年 10 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 準備状況の説明 <ul style="list-style-type: none"> ①過去の ICAA ②ICAA の必要事項 ③ICAA 準備 WG 2. ICAA18 の概要 <ul style="list-style-type: none"> ①会期 ②開催場所 ③組織構成 ④スケジュール 3. 組織委員会・実行委員会スケジュール 4. 役割分担(外部委託を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 資料に基づき報告。 ICAA の開催規模、開催時の要求事項 を確認し、準備 WG 活動経緯を報告。 2. 資料に基づき報告。 <ul style="list-style-type: none"> ①2022 年 9 月 4-8 日 ②富山国際会議場、ANA ホテル ③実行委員会の 4WG で役割分担。 ④外部公表のスケジュール確認。 3. 資料に基づき報告 4. 組織委員会メンバーの管掌決定
第 2 回	元年 11 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 台湾開催 AFLM2019 参加報告 2. 軽金属国際ワークショップ 3. ICAA18 キックオフミーティング報告 4. ALMA2020 準備 5. その他 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 11 月 7-8 日参加報告書確認。 2. 11 月 12 日ヒルシュ先生講演会報告書確 認、1 月 31 日フラウンホーファー第 2 弾 内容確認。 3. 国際交流委員会の役割確認。 4. 予算、会場、会期、Forum テーマ、 Meeting 内容(MOU 締結)、見学会、レ セプション・懇親会、表彰楯、役割分担 等々確認。 5. 他協会連携検討継続、優秀英語ポスター 発表賞審査方法統一案次回提出、国際 会議便り執筆者推薦。
ICAA18 第 2 回 組織委員会	元年 12 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 収支予算と寄付について 2. 各 WG への検討依頼事項について 3. 各 WG 進捗 <ul style="list-style-type: none"> ①サーキュラ・プログラム編成 WG ②論文審査・論文集編纂 WG 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 収支予算案、特別維持会員 5 社への協 力要請、日本アルミニウム協会への協 力要請、軽金属溶接協会への協力要請 結果報告。寄付金はほぼ予算通り確 保。 2. 検討依頼事項を確認。 3. 2WG の進捗確認 <ul style="list-style-type: none"> ①1st サーキュラ案確認。4 月完成。 ②当日 Extended Abstract(2P)集冊子配 布、Mater. Trans.特集号を論文集とす る。
ICAA18 第 1 回 展示・エクス カーション・ 見学会 WG	2 年 1 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 展示 SWG 2. エクスカーション・工場見学 SWG 	<ul style="list-style-type: none"> 1. WG メンバー選任。展示目的・コンセプト 検討、小山田記念賞製品・北陸地域アピ ール展示検討。 2. WG メンバー選定。富山開催国際学会事 例を参照し、参加者のメリットを考慮した 企画検討。
ICAA18 第 1 回 実行委員会	2 年 2 月 3 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 役割分担確認 2. ICAA 国際委員会方針確認 3. 組織委員会議事録確認 4. スケジュールについて 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 資料に基づき確認。 2. 熊井国際委員から説明、確認。 3. 資料に基づき確認。 4. 4 月 1st サーキュラ完成、6 月 ICAA17

		<p>5. 予算について</p> <p>6. 各担当 WG 報告</p> <p>①サーキュラ・プログラム WG</p> <p>②論文審査・論文編纂 WG</p> <p>③会場・講演会・バンケット WG</p> <p>④展示・エクスカージョン・工場見学 WG</p>	<p>で配布を確認。</p> <p>5. 資料に基づき確認。</p> <p>6. 以下、報告。</p> <p>①1st サーキュラ案、カテゴリー案、プログラム案報告。</p> <p>②フルペーパー論文集発行せず、1ページか2ページのアブストラクト集を当日配布。Mater.Trans.投稿を推奨。参加費に投稿料を含む。</p> <p>③会場案を確認。</p> <p>④展示は小山田記念賞製品、北陸地域展示、見学は木曜午後。</p>
ICAA18 第3回 組織委員会	2年2月14日	<p>1. 実行委員会各 WG 報告</p> <p>①サーキュラ・プログラム WG</p> <p>②論文審査・論文編纂 WG</p> <p>③会場・講演会・バンケット WG</p> <p>④展示・エクスカージョン・工場見学 WG</p>	<p>1. 以下、報告</p> <p>①1st サーキュラ修正案、申込期日決定、後援5社名・富山紹介追加。</p> <p>②1 ページアブストラクト全員提出、Mater.Trans.特集号12月発行</p> <p>③会場案を確認。</p> <p>④10月までに展示コンセプト、見学案検討。</p>
第3回	2年2月28日	<p>1. 第2回フ라운ホーファーフォーラム報告</p> <p>2. ALMA2020 準備</p> <p>3. 優秀英語ポスター発表賞選考一本化</p> <p>4. ICAA18 進捗</p> <p>5. 70周年記念事業(国際賞創設)</p>	<p>1. 35名参加。第3回も企画。</p> <p>2. 進捗確認。Meeting(MOU 締結)、見学会、レセプションなど進捗確認。</p> <p>3. 138回春期大会審査担当確認。139回一本化の規程案検討。</p> <p>4. 熊井組織委員長より報告、確認。</p> <p>5. 記念事業の招待講演とするか、賞創設するか議論継続。</p>
ICAA18 第2回サー キュラ WG	2年3月4日	<p>1. 1st サーキュラ記載内容修正</p> <p>2. メインテーマについて</p>	<p>1. トピックス、日本のアルミニウム、アクセスなど修正案作成。</p> <p>2. Aluminium and its alloys for zero carbon society に決定</p>
ICAA18 第3回サー キュラ WG	2年3月25日	中止	
ICAA18 第2回 実行委員会	2年3月25日	<p>メール会議</p> <p>1. 各 WG 進捗まとめ</p>	<p>メインテーマ、WEB 版サーキュラ、使用会場案、Mater.Trans.投稿掲載費用案など WG 検討結果を承認し組織委員会に上申。</p>
ICAA18 第2回 展示 WG	2年3月30日	<p>1. 展示コンセプトについて</p> <p>2. 展示品について</p>	<p>1. 環境・エネルギー・リサイクルなど社会問題への課題提起と解決のアイデアのイメージが描ける内容。</p> <p>2. 「北陸」を中心とし、環境・エネルギーに関連する展示、海外参加者が普段見られないものなど。</p>
ICAA18 第4回 組織委員会	2年3月31日	<p>1. 実行委員会各 WG 進捗報告</p> <p>①プログラム・サーキュラ WG</p> <p>②論文審査・論文集編纂 WG</p> <p>③会場・講演会・バンケット WG</p> <p>④展示・エクスカージョン・工場見学 WG</p> <p>2. 今後の進め方について</p> <p>①ICAA17 開催／延期／中止の状況確認と対応策</p> <p>②1st サーキュラ印刷版配布、PDF(WEB版)配布について</p> <p>③Mater.Trans.投稿費用、展示費用増加にともなう予算見直しについて</p> <p>④WEB ページ作成について</p>	<p>1. 下記報告を確認した。</p> <p>①ICAA17 が 10 月に延期されたため、1st サーキュラ印刷版、WEB 版を 9 月に決定。</p> <p>②投稿掲載費用など 650 万円。</p> <p>③会場案の費用見積を実施。</p> <p>④使用会場、広さ確定を至急実施。</p> <p>2. 下記内容を協議、決定した。</p> <p>①ICAA18 日程変更なしのため、1st サーキュラ配布を 4 か月遅らせるが、他の日程は変更なし。</p> <p>②日本語版サーキュラを作成し、国内配布、学会 HP 掲載を検討。</p> <p>③投稿費用削減策、参加登録料値上げ、会場費試算を 6 月までに実施。</p> <p>④次回、ICAA18WEB ページ提示。</p>

(6)大会運営委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第8回	31年4月24日	1. 第136回春期大会確認事項 託児室等 2. 第137回秋期大会準備状況 会場案他 3. 企業WG報告 1)企業交流会改善策 4. 大会運営WG報告 1)大会2.5日制 2)託児室規程見直し 3)機器・カタログ展示見直し案 5. 引継事項 6. その他 ・137回秋期大会テーマセッション3件 ・会員増強WG会費制度見直し ・旅費規程改定	1. リクルート企画11社参加、託児室覚書締結(スマイルキッズ) 2. 会場案と懇親会(生協)報告。市民フォーラムはプラスチックゴミ関連キッズ向けを検討。 3. WG検討事項報告。 1)134回から企業交流に代わり、リクルート企画開催。137回はランチョンセミナーで学生集客を検討。 4. WG検討事項報告。 1)市民フォーラムは補助金申請のため継続、廃止、他の企画など意見を今後検討。 2)男女共同参画委員会案を承認。 3)ランチョンセミナー方式検討 5. 委員長案確認。修正版作成。 6. 下記、報告。 ・3件採択。 ・大会運営委員意見聴取。 ・改定内容説明。4月から運用。
第1回	元年8月6日	1. 引継事項と今期活動について 2. 企業WG報告 3. 運営WG報告 4. 第136回春期大会の決算および反省点 5. 第137回秋期大会の開催計画 6. 第138回春期大会について 1)開催計画概要、予算、実行委員会名簿 2)テーマセッション募集日程 7. 男女共同参画委員会報告 8. 第137回大会プログラム編成について	1. 引継事項確認、WGメンバー承認。 2. サブWGメンバー入替。企業交流は招待講演実施。リクルートは企業研究会への学生参加増加を検討。 3. 大会運営全般見直し(2.5日制、市民フォーラム、機器展示企業ランチョンセミナー)、英語版大会会告、優秀英語ポスター発表賞審査一本化、ユーザー目線のプログラム編成、概要集電子版一般販売可否等、検討。 4. 決算および申送事項について報告。 5. 市民フォーラムは近隣中高生向けに「学生フォーミュラ紹介」を企画。 6. 資料に基づき報告、確認。総会はかがわ国際会議場、講演会は香川大学で開催。市民フォーラムはジオパーク、香川の食の繋がりの講演を予定。 7. 第137回大会で「若手のキャリアパスを考える」セッション開催につき、単独講演時間枠要請。 8. 6会場プログラム編成。座長、ポスター審査員案を決定。
第2回	元年10月10日	1. 企業WG報告 2. 運営WG報告 ①大会運営全般の見直し・改善 ②講演大会会告英語版作成 ③国際交流委員会との協働 ④プログラム編成(ユーザー目線)見直し ⑤講演概要集の著作権問題対応 3. その他	1. 137回秋期大会リクルート企画ブース11社置、企業招待講演3社決定。ランチョンセミナー見送り、次回企業セッションテーマを検討。 2. 下記報告、協議。 ①機器カタログ展示企業にランチョンセミナーアンケート、レセプション次第簡素化、市民フォーラムフレキシブル対応・アンケート、2.5日制アンケート、支部長会意向確認など実施検討。 ②大会案内、大会参加申込、大会講演募集、ポスター発表実施要領を英語化。 ③国際交流委員会提案を待ち、第139回から日本語・英語ポスター発表審査一本化を検討。 ④継続検討。 ⑤電子版(USB)の一般書籍販売 3. 下記、報告。

		①第 137 回秋期大会報告 ②第 138 回春期大会報告 ③高分子材料のテーマセッション講演発表	①懇親会冒頭でのポスター賞表彰、学生フォーラムノベルティグッズ配布。 ②会告案作成中。 ③テーマセッションでの発表承認。
第 3 回	2 年 1 月 30 日	1. 第 137 回秋期大会の決算および反省点 2. 第 138 回春期大会の開催計画 3. 第 139 回秋期大会について 1)開催計画概要、予算、実行委員会名簿 2)テーマセッション募集日程 4. 企業 WG 報告・討議 1)第 137 回秋期大会 2)第 138 回春期大会 5. 運営 WG 報告・討議 1)大会運営全般の見直し・改善 2)英語版大会案内 3)ユーザー目線の講演分類 4)概要集電子版一般販売 5)大会規程改定 6. 男女共同参画委員会報告 1)第 137 回大会キャリアセッション 2)第 138 回大会男女共同セッション 3)託児室規程改定 7. 第 138 回大会プログラム編成について	1. 決算および反省点について報告。 2. 資料に基づき報告、確認。 3. 第 139 回秋期大会実施内容決定。 1)資料に基づき報告、確認。 2)資料に基づき報告、確認。 4. リクルート企画、企業セッション内容報告。 1)リクルート 11 社、学生参加者 100 名。北陸支部企業 4 社講演。 2)リクルート学生参加増員策継続、「輸送」関連企業セッション 2 件講演。 5. WG 各担当から報告、討議。 1)2.5 日制支部長意見まとめ、会員アンケート計画、ランチョンセミナー実施なし。 2)会告、講演申込、参加申込英語版作成、概要集フォーマット、執筆要領作成。学生学年表示。 3)過去の分類調査。 4)冊子版より 1000 円高く販売決定。 5)テーマセッションでの高分子発表承認、特典・経費負担追加。 6. 両会からの報告を確認。 1)「若手のキャリアパスを考える」。 2)「身近な無意識のバイアス」予定。 3)利用料無料、規程簡略化。 7. プログラム編成。座長、ポスター審査員案を決定。
第 7 回	31 年 1 月 29 日	1. 第 135 回秋期大会の決算および反省点 2. 第 136 回春期大会の開催計画 3. 第 137 回秋期大会について 1)開催計画概要、予算、実行委員会名簿 2)テーマセッション募集日程 4. 企業 WG 報告・討議 1)第 136 回大会企業セッション内容 2)リクルート企画アンケートと改善策 5. 運営 WG 報告・討議 1)WG 検討進捗 英語対応 2)金曜集客策 3)概要チェック(電子化 WG 報告) 4)優秀英語ポスター発表賞審査結果検証 5)論文投稿者特典:大会懇親会招待 6. 男女共同参画委員会報告 1)第 136 回大会男女共同参画セッション 2)若手の会 第 137 回大会キャリアセッション 3)女性会員の会 7. 引継事項、委員出席率 8. 第 136 回大会プログラム編成について	1. 決算および反省点について報告。 2. 資料に基づき報告、確認。 3. 第 137 回秋期大会実施内容決定。 1)資料に基づき報告、確認。 2)資料に基づき報告、確認。 4. 第 136 回大会実施内容決定。 1)北陸支部企業招待講演「富山大会でまるわかり！北陸発の軽金属産業」を実施。 2)軽金属企業研究会継続。2 日間学生対応、ノベルティグッズ提供。 5. WG 各担当から報告、討議。 1)英語版 HP 申込サイト、概要原稿の書き方等、136 回から対応。 2)反省事項と改善策継続検討。 3)事務局での従来チェック継続。 4)第 136 回大会も同様実施。 5)第 137 回大会から実施、様子見。 6. 両会からの報告を確認。 第 136 回から一般講演セッションと同時に男女共同参画セッションを実施。チラシ配布を依頼。 7. 委員長に作成依頼。 8. 新講演分類にてプログラム編成。座長、ポスター審査員案を決定。

(7)研究委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第7回	31年4月10日	1. 研究部会期末報告 2. 新研究部会報告 3. ロードマップ書式統一と内容更新 4. 平成30年度決算見込と平成31年度予算、後継部会への剰余金申請 5. 部会入会手続き、部会費徴収について 6. 引継事項 7. 平成30年度事業報告(総会資料) 8. その他	1. 20研究部会報告。 2. 7部会中6部会報告 3. 後日書式送付し、更新依頼。 4. 予算確認。部会長の研究委員会参加旅費を部会負担に変更。4部会の剰余金申請承認。 5. HPに入会手続き掲載。6月部会費徴収。 6. 委員長案承認 7. 各部会の記載内容確認依頼。 8. 著作権規程改訂準備中であり、注意文書内容を研究委員会でも運用依頼の予定。
第1回	元年9月25日	1. 引継事項 1)研究部会フォロー体制、副部長確認 2)部会紹介 2. ロードマップについて 3. 部会中間報告(8部会) 4. 決算報告 5. 研究部会新設、継続提案スケジュール	1. 引継事項、部会フォロー体制、副部長選任について確認。2年経過部会の部会紹介記事作成依頼。 2. 日本アルミニウム協会との協働、学会ロードマップ書式統一、2019年改訂版作成の計画を確認。 3. 各部会活動内容確認と要望事項。 4. 8月末決算結果報告。 5. 部会新設スケジュール確認、検討WGに新設部会提案要請。
第2回	元年12月25日	1. 研究部会新設 2. 後継部会設置申請 3. 研究部会延長申請 4. 部会中間報告 5. ロードマップ見直し 6. 研究部会報告書:発刊時期確認と作成手順	1. マテリアルインフォマティクス部会新設承認。粒界に関する部会も準備中。 2. 表面処理、凝固、チタン、腐食予測、トライボロジー後継部会設置なし。 3. 成形部会の延長承認。 4. 10部会から中間報告。 5. 組織制御、チタン除き2019年度版作成。 6. 今期終了5部会の発刊予定確認。印刷費用20万円に低減。

(8)支部長会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第1回	元年5月12日	1. 平成30年度支部収支報告書および令和元年度支部収支予算書および第1四半期決算について 2. 中堅企業支援活動 3. 今後の開催予定地 4. 年間表彰スケジュール 5. 会誌支部特集 6. その他	1. 事務局より提示した資料確認。 2. 平成30年度実績報告と令和元年度活動要請。 3. 2021年第140回春期大会までの開催日程、予定地を確認。 4. 事務局提示資料を確認。功労賞ポイント制、支部役員名称統一を協議。 5. 九州支部2019年7月掲載を確認。 6. 引継事項確認。エネコン審査関東支部担当、東海支部運営費見直し要請など協議。
第2回	元年10月25日	1. 支部長会課題と対応協議 ①維持会員増強 中堅企業支援プログラム内容見直し ②功労賞受賞対象検討 ③大会2.5日制課題検討 ④令和2年度支部配賦額案と東海支部配賦額見直し ⑤支部留保額削減 ⑥大会黒字分の支部還元方法検討 ⑦その他	1. 資料に基づき報告、討議。 ①無料セミナー継続、コーディネーター経由検討。 ②継続検討。 ③運営立場からの意見取り纏め。 ④支部に持ち帰り、次回承認予定。東海支部配賦額見直しは令和3年予算策定時に実施。 ⑤支部に削減要請。 ⑥未検討。 ⑦高校生ポスター発表、学会紹介、中高生向け見学会など企画要請。

第3回	元年 11月3日	1. 令和元年度支部第2四半期決算 2. 令和2年度支部費配賦額 3. 支部活動について 4. 今後の開催予定地 5. 年間表彰スケジュール	1. 事務局より提示した決算資料確認。 2. 配賦額承認。 3. 維持会員勧誘策、支部留保取扱い、支部配賦額増額を議論。 4. 141回秋期大会会場・会期末定。 5. 2020年度スケジュール連絡。
第4回	2年 2月20日	1. 大会2.5日制に関する支部長会見解まとめ 2. 維持会員増強策	1. 原則2日制への復帰を要請 2. 公設試活用、勧誘へのインセンティブ、研究費助成等検討。

(9) 参与会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第27回	元年 7月24日	1. 講演会の実施 2. 委員会の開催	1. マテリアルズ・インフォマティクスに関する最新動向と異次元の素材メーカーを目指して 2. 参与会活動について
第28回	元年 11月24日	1. 見学会の実施 2. 講演会の実施 3. 委員会の開催	1. 日本フルハーフ株式会社 厚木工場 2. 「トラック輸送機器業界の現状および今後の展望」 3. 参与会活動について

(10) 男女共同参画委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第5回	31年 4月3日	1. 第136回春期大会セッション準備状況 2. 第137回秋期大会セッション 3. 2019年女子中高生夏の学校 4. 学協会連絡会シンポジウム 5. 引継事項、委員会出席率 6. 男女共同参画学協会連絡会参加報告	1. チラシ作成、配布先決定。講師講演テキスト作成予定。参加勧誘のため、3回、メール送信。 2. 春期大会時に、女性(独身)、男性(共働き)講師内諾伺い。 3. 8月9-11日開催。10日ポスター展示。重量比較サンプル、缶成形過程、アルミパウダーラメ、啓蒙冊子など展示。7月20日展示品収集。 4. ポスター展示を計画。金属学会事例をベースに担当者2名が作成。 5. 委員長案を承認。 6. 関委員報告。後援依頼を今後検討。
第1回	元年 7月17日	1. 委員自己紹介、規程確認 2. 引継事項、今期活動計画 3. 第136回大会 男女セッション開催報告 4. 夏の学校出展内容(8月10日) 5. 第137回大会 若手キャリアセッション 6. 託児室規程改定 7. 男女共同参画学協会連絡会	1. 規程内容確認。 2. 活動内容、女性比率データ確認。 3. 資料に基づき報告。 4. 学会紹介パネル作成、展示物、ノベルティグッズ決定。 5. 講師2名、チラシ作成決定。 6. 総務委員会差戻の対応案協議。 7. 10月12日シンポジウムでの活動紹介ポスター展示決定。
第2回	元年 10月17日	1. 夏の学校開催報告 2. 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム中止報告 3. 第137回秋期大会若手キャリアセッション 4. 託児室規程改定案 5. 第138回春期大会 セッション企画立案	1. 来年に向けて改善点検討 2. 台風により中止。作成ポスターを第137回秋期大会で掲示。 3. チラシ委員配布、テキスト1名分作成。 4. 総務委員会見直し案と運用マニュアル案を協議。 5. 担当選任、無意識のバイアスをテーマとし、学側・企業側講演者選定。第139回秋期大会は若手の育成、指導経験談を候補とする。
第3回	2年 1月21日	1. 第137回秋期大会報告 2. 第138回春期大会計画 3. 第139回秋期大会計画 4. 託児室規程改定案	1. 「若手のキャリアパスを考える」 2. 「身近な無意識のバイアス」企画。 3. 「最近の若手育成及び指導方法を考える」企画。 4. 利用料無料、規程簡略化。

		5. 仕事・育児両立意識調査 6. 平成 18 年度から平成 22 年の間の新規入会(男女)・会員継続数調査 7. 北尾真理子講師「無意識のバイアス研修会」企画	5. 男女共同参画学協会連絡会での大規模アンケートと併せて実施検討。 6. 他学会と比較し継続率高く、男女差少ない結果。 7. 理事会メンバーへの研修会企画。
--	--	--	---

(11)組織委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
なし			

[4]許可、認可、承認、証明に関する事項

連絡令和年月日	議事事項	履行状況
なし		

[5]契約に関する事項

契約締結平成年月日	契約内容	契約先・委託者
31年4月1日	アルミニウム表面処理材の伝熱特性調査共同研究契約書	佐賀大学海洋エネルギー研究センター 准教授 有馬博史

[6]寄付金に関する事項 寄付金支出はなし

[7]主務官庁からの連絡および報告事項

連絡令和年月日	議事事項	履行状況
なし		

[8]その他重要事項 特になし

[9]会員動向

()内は内数

	名誉会員	永年会員	個人会員				合計
			正会員	学生会員	外国人	合計	
令和2年4月1日	51	93	1,523	294	(5)	1,817	1,961
平成31年4月1日	53	98	1,535	248	(5)	1,783	1,934
差引増減	△2	△5	△12	46	-	34	27

正会員の内訳

	大学・高専等	公的研究機関	企業等	その他	合計
令和2年4月1日	453	89	942	39	1,523
平成31年4月1日	446	92	958	39	1,535
差引増減	7	△3	△16	-	△12

特別維持会員・維持会員・年間購読の内訳

	特別維持会員	維持会員	口数								年間購読	
			10	8	6	5	4	3	2	1		合計
令和2年4月1日	5	141	2	0	0	0	1	2	16	120	182	55
平成31年4月1日	5	137	2	0	0	0	1	3	16	115	180	62
差引増減	-	4	-	-	-	-	-	△1	-	5	2	△7

[10]事業報告の附属明細書 事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、附属明細書は作成していない。